

東京女子高等師範學校
日本幼稚園協會

幼 兒 の 散 育

主 幹

堀 七 藏

第 二 十 六 卷 九 月 號 第 九 號

- 口繪・砂遊び自動車……………倉橋惣三
「善良なる性情」……………
世界的な二つの幼児教育……………マクミラン女史
（一）保育學校と母性……………レスター女史
（二）ジュネーブに於ける子供の家……………
保育事項として「觀察」に就て……………和田實
遊戲「砂のトンネル」……………土川五郎
童話「春雄さんと蟻」……………中村楠始
童話「兄ちゃんの夢」……………大塚喜一
幼兒に聴かせる話……………お茶の水幼稚園
「猫のお見舞」……………
「ホコゴ」……………よしこ
麥湯……………しこ
托兒所にありて感じた事ども……………高梨花子
砂遊び自動車……………富士見幼稚園
雜錄……………

東京女子高等教師 倉橋惣三 序
 米國 ノ・ラ・ア トゥ・ドゥ トゥ・ウ ドゥ 史女 著
 日本 馬場 一定 譯

理想の幼稚園

最新刊

四六版洋装
 百八十餘頁
 定價壹圓五拾錢
 送料拾錢

□いかにせば保育の理想は實際化さるべきか□?

原著者の序 保姆養成所を修了した婦人が、いよ／＼幼稚園に行つて實際に
 幼児を自分の手で保育して行かねばならぬ事になると、誰しも今まで教はつた
 知識は更に役に立たないで、どうしたらいいか、殆んど途方に暮れ勝なもので
 あります。學校では新しい理論には、食傷して居る程でも、今となつて見れば、
 大切な部分は大抵皆忘れてしまつて、度々ノートの御世話にならねばならぬの
 であります。若し虎の巻の巻へも、時には實際の間には合はぬ勝なもの
 であります。若し保姆さん達の爲に、一方には其の記憶を新にし、且つは幼稚
 園の實際問題に關する根本的な事柄を蒐めるのがこの本の申譯であります。多
 少でもこれによつて保姆さん達の見識を高め、其の仕事の助になる事が出來れ
 ば幸です。云々……

我が國に於てもいよ／＼幼稚園令が實施されることとなりました。この際本
 書が紹介されましたことは眞に喜ばしいことであります。本書は斯界の權威た
 る倉橋教授が夙に推賞されてゐるものであり、また譯者馬場先生は現に京都市
 に於いて幼稚園教育の有力な指導者であります。本書が如何なる光明を我が幼
 稚園教育の上に投ずるかは多く問はずして明かでありませう。

東京市牛込區赤城町
 文 教 書 院
 振替 東京 四四三 三五

覽台下殿族皇號每誌本賜

誌雜習學大

編輯會究研導指習學

東京兩高等師範學校
廣島高等師範學校
奈良女子高等師範學校
府立中學校・女學校

各教官諸
先生が毎
日執筆さ
れます。

（毎月一回一日發行）
趣味と學習を兼ねた雜誌！
あなたを優等生にする雜誌！
全國小學生間大評判雜誌！

男子幼稚園

◎特に四歳以上の男生の友として編まれたもの、初めて理想の學習雜誌を見たところ好評さる（定價卅錢）

第一年生

◎一年生の人には全部お読み下さい、學校といふものを理解させ好にさせ天分を助長さす良雜誌（定價卅五錢）

第二年生

◎學課に彩色繪に讀物に光影・幽離・時間の經つもの忘れる。本誌讀者は全優等生。（定價卅五錢）

第五年生

◎初等教育界の權威者が全部執筆せる好雜誌他にありや、難解の學課も直ちに氷解さる。（定價四十錢）

女子幼稚園

◎男子幼稚園と同じく四歳以上の女生の友、切抜貼込理科算術算意畫論繪の稽古等兒童の好同伴（定價卅錢）

第二年生

◎群小雜誌と選を異にし飽く迄も學習に主眼を置き自然に成績を優良ならしめる兒童の友（定價卅五錢）

第四年生

◎その人を見んとせばその讀む本を見よ！本誌の如き天下一の良雜誌の讀者は模範生と仰がる（定價卅五錢）

第六年生

◎引續き本誌を愛讀せば中學校女學校の入學試験も少しも恐ろしい事はない、諸君の救ひの神（定價四十錢）

發行所 東京市神田區小學校館 振替 東京一〇一五番 大阪一〇一五番 東京一〇一五番 東京一〇一五番



育教の兒幼輯編會協園稚幼本日

會長

東京女子高等師範學校長

茨木清次郎

主幹

東京女子高等師範學校教授

堀七藏

贊助員

東京高師教授

巖谷秀雄

市洋大學教授

高島平三郎

東京帝大醫科講師

醫博

乙竹岩造

東京府女子師範學校長

龍山義亮

東京高師教授

文博

太田孝之

帝國教育會理事

土川五郎

慶應大學教授

醫博

唐澤光德

松江高等學校長

文博

野上俊夫

早蕨幼稚園長

岸邊福雄

京都帝大教授

文博

乘杉嘉壽

帝國教育會會長

文博

久留島武彦

東京女子高師教授

醫博

倉橋惣三

東京高師教授

文博

澤柳政太郎

東京女子高師教授

文博

松村武雄

東京女子高師教授

文博

佐々木秀一

東京帝大教授

文博

松本亦太郎

東京女子高師教授

文博

菅原教造

奈良女子高師校長

文博

横山榮次

東京市學務課長

醫、文博

富士川游

奈良女高師附屬幼稚園主事

醫博

三田谷啓

東京女子高師講師

藤

藤井利譽

東京高等學校長

文博

湯原元一

長崎縣師範學校長

文博

福士末之助

東京帝大教授

文博

吉田熊次

女子大學長

文博

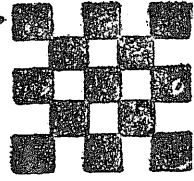
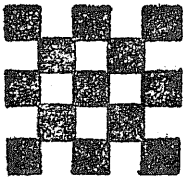
谷本富

女子大學長

文博

安井哲子





第九號

幼 兒 の 教 育

第二十六卷

—(次 目)—

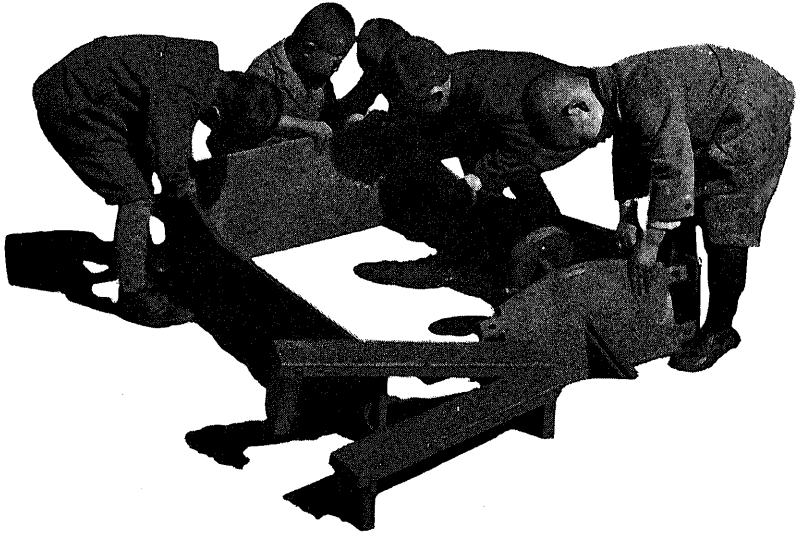
口繪・砂遊び自動車……………	倉橋惣三
「善良なる性情」……………	
世界的な二つの幼児教育……………	
(一) 保育學校と母性……………	マクミラン女史
(二) ジュネーブに於ける子供の家 レスタ―女史	和田實
遊戯「砂のトンネル」……………	土川五郎
童話「春雄さんと蟻」……………	中村楠雄
童話「兄ちゃんの夢」……………	大塚喜一
幼兒に聽かせる話……………	お茶の水幼稚園
「猫のお見舞」……………	
「ボコボコ」……………	
麥湯……………	よしこ
托兒所にありて感じた事ども……………	高梨花子
砂遊び自動車……………	富士見幼稚園
雜 錄……………	



(一)



(二)



富士見幼稚園の砂遊び自動車（記事参照）

(三)



(四)



善良なる性情

——われ等の反省——

倉 橋 惣 三

新幼稚園令の傑作の一つは、幼稚園の目的を規定せる第一條劈頭に於て、善良なる性情の涵養といふ語句を用ゐたることである。舊規定に於て、善良なる習慣といつてゐたのを更められたのであつて、簡單なる辭句の變更として見るには、餘りに深い差違である。

善良なる習慣といふ辭句も、解しやうによつては、相當の深さあるものには相違ない。往々にして淺く解せられた如く、單に外形的習慣といふ意味に止まるものではない。心性全體の習慣は即ち一種の性格と見らるゝものであつて、正しき考へ方、美しき感じ方の習慣は、すなはち、正しき美しき性格に他ならぬともいへる。少くも、外部行動の機械的習慣といふ如きものに限られたのではない。しかしながら、習慣といふ辭句自身は要するに、生活に對する形式方面の辭であつて、従つて、教育方法上の縛を多分に有して居る。習慣そのものが目的にあらずして、習慣によつて性格の作られるのが目的であつて見れば、即ち、習慣は一種の方法上の途である。之れに對して、性情なる一語、端的に幼兒教育の目的

の内容を提示し來つたものであつて、そこに、大いなる差別を認めざるを得ない。

しかも、そうした比較論は暫く別として、より重要な問題は、善良なる性情、そのものの意義である。善良なる性情とは果して如何なるものか。これこそ、徹底的に、詳密に、幼児教育者の研究しなければならぬ幼兒倫理學である。善良といふと雖も、幼兒生活に於ける善良とは何か、性情といふも、幼兒生活に於ける性情とは何か、必ずしも、單に常識的に片づけられる問題ではないのである。

二

しかも、吾人の茲に語らんとするは、その詳しき學問的研究ではない。幼稚園が此の目的を誤らざらん爲に、兎に角く必要なる、保姆その人の性情に就てである。保姆その人が必ず有しなければならぬ、善良なる性情そのものに就てである。之れは、われ等大人同志のことだけに、幼兒の場合よりは簡單明瞭に理解せられ得ることである。しかし、考へるには明瞭なことであるが、實際に於ては、六かしいことである。敢て問ふ、幼兒に善良なる性情を涵養せんとする我等は、自ら善良なる性情を潤澤に豊富に有し得て居るや。亦敢て思ふ。幼兒には善良なる性情が却つて豊かにあり、われ等にこそ、その難きを思はざるを得ないであるまいか。善良なる性情の缺け易きは、われ等にこそ、却つて多いのであるまいか。他のことは兎に角くも、善良なる性情に就ては、われ等の方が幼兒から教へらるゝこと多いのではあるまいか。——善良なる習慣ならば、或はわれ等が先きにして、幼兒が與へられることも多かつたか

も知れない。性情そのもの、眞實に於ては、それが却つて逆しまになることの多いことではあるまいか。

性情は性情である。知識でない。行動でない。理でない。形でない。「善良」に關してよく知り、「善良」を行ふことに過ちなしとして、それですぐに、性情そのものが善良なりや否やは別のことである。善良の性情とは善良であることそれ自體である。善良なる存在、善良なる實質そのものである。行ひ方よりも深く、考へ方よりも濃かな、性そのもの、實の姿である。——それが大人に六かしいのである。大人なるが故にまたしても六かしいのである。神に肖る幼児達には實の姿ではあつても、われ等には、此のわれ等には、影の姿となり易いものなのである。

三

今日も亦、幼児達に善良なる性情を養はんとて幼稚園にゆく。しかも、あの小さき、善良なる性情の所有者達の前に、自ら耻ぢざる人幾人がある。誤りて考へ、過ちて行ひ、不完全と、不整頓と、時には粗野と、無作法との間にさへ、さらめく如き善良の性情におのづからに頭の垂るゝを禁じ得ないのが常である。性情は、屢々、地殻の下に潜在する。あの頑な、岩石の割れ目に、ほとばしり出づる眞清水の清淨さよ。性情はまた、屢々、未熟の果實の中に包まれる。あの醜い表皮を透して、かをり出づる芳香のすがくしさよ。整へおさめ、時には、形づくり粧ひ、而して、下に穢土を藏し、裡に腐臭を貯ふる

ものゝ、その外面の善。上表の良。辛じて「善」と「良」とに制せられてゐる、不良にして不善なる性情の實在者。習性の卑怯と詭黠とに自ら己れを欺き、識らずして己れを粧はふ天真の缺如者、——用語の過激なるを咎むる勿れ、幼児の前に、耻ぢ隠れんとする我等の實相は皆之れである。——今日もまた、幼児達に善良の性情を養はんとして幼稚園にゆく。自ら耻ぢて呆然たらざるもの幾人がある。

世界的な二つの幼児教育

マクミラン、ナーセリー、スクール (英國)

メイゾン・デ、プテイ (瑞西)

ロンドンのマクミラン・ナーセリー・スクールと、ジュネーブのメイゾン・デ・プテイとは、世界的に有名な幼児教育の場所です。ロムビアのヘル女史に、ヨーロッパでは何處を參觀しませうかと尋ねた時、すぐに紹介してくれた中でも、この二つは主なるものでした。實際二つとも興味あり又研究のれうちあるものでした。丁度最近の「キンダーガルテン、エンド、ファストグレード」と「アメリカン、チャイルド」とに、これに關するい、記事が出てゐましたから譯して貰ひました。(倉橋生)

保育學校と母性

マアガレット、マクミラン

メリー女王が、其御子達の保姆を補助せられると同様に、我々はデットフォードの我が母達を扶助しなければならぬ。

母達の身分や力量に於ては確かに大なる差違が

あるが中心とすべき事實は同一である。即ち私共は母達と其子等を助けなければならない。母親の家庭、財産、時には其智識も僅少である。此處に我々の責任、希望、努力、總ては、却て多大であ

る。そこで私共は奉仕せねばならぬ。如何に奉仕の必要であるかといふ事は、子供達が始めて来る日に最も明瞭に感じられる。

一九一一年に妹と共にキヤムプスクールを始めた時に我々は多くの正しい調査を行た。そして醫療訓練の爲の臨床講義や、心理學の實際を以て多くの興味ある仕事を行た。それは初期の報告に發表されたもので、その中非常に著しくあつたと云一つの事實は此の哀れな土地の殆ど總ての子供達は、一般に異常と信じられて居る處の畸形の爲に苦しんでゐる事である。彼等は此土地では異狀ではないが正常兒として世に斯様な事があり得るでしようか。併し我々が之に依てある區域の標準兒を指示しようとするならば、それは困難な事である。或年代の、又は或土地の標準兒は他の時代又は他の土地の正當兒ではない。我々が異常兒を希望すれば正常兒に考る事が出来る、といふ事は

是非知て置くべき事である。どの區域でも標準をあげ得るごく簡易なしかも非常に早い方法がある。今は過渡時代である。新しい國民の時代である若葉が花に變る時である、新しい種族が一日の中に産れる事すらある。

社會事業、それは非常に極端に云へば、それは調査、研究事業である、我々はいかなる勞力をしても、子供達の救ひに對しては大膽にしなければならぬ。若し我々が、幼稚園や保育學級を單に認めてのみ居るならば、現代に於ても近き將來に於ても大なる社會的變化を見る事は出来ない、然し前の時代の警告に依て、ごく僅づゝでも、遠からず精神的に我々の問題に接近して来る、第一に大な學校を持つ事と、第二に生徒と勞働者との異た群に對して異た訓練課程を授ける事に依て、我々は眞の奉仕を爲る機會を得、又研究に依て實際變化を來した事實を持つ事が出来る。有福な母親

の子供室は狭くて限定されて居る。實際此の事を
 知て家から家に子供を連れ出す母がある、丁度貧
 しい母達が向ふみずに、街路に子供を出すよう
 に。

然し之等の場所は、子供の世界ではない。其處
 で二つの階級の子供達がたえず富貴の中の危険と
 貧困の中の危険な醫術や道徳に曝されながら生活
 する、其の結果は、單に調査、研究の中ではなく、
 實際、我々の目前に、我々の大きな保育學校の中
 にある。私達の小さい子供達は二才の時に保育學
 校に來る。彼等は規則として來ようとはしない。
 丁度初聲と共に地上の生活を始める様に、保育學
 校に於ける生活を始めるのである。彼等は已に種
 々な方面で害されて來た、然し全體として子供達
 は不思議に保護されて來たのである。眼科醫の大
 家が、二百五十人の五歳以下の保育學校の子等の
 就にて、ラチエル・マクミラン・センタアに於て

行た最初の立派な調査報告には、全然犯された眼
 は二パーセントで、他の九十八パーセントはまぬ
 がれて居た。

實際盲目な子は一人も居なかつた。かように自
 然は親切ではあるが、自然そのまゝに保護しては
 ゐなかつた、といふのは保育學校に來た子供達の中、
 八十パーセントは、脊髄病で苦しんで居た。
 しかしのがれる道はいくらもある。一年の中に一
 パーセントの子供は脊髄病に苦まないやうになつ
 た。しかしこれはは硝子張の室でも作るのぞなけ
 れば、屋内の學校では見られない結果である。

然し、我々は日あたりのよい、廣々とした、自
 然の庭を、技巧的な最上の施設よりも、寧ろ希望
 する。そして年のたつに従て我々は、英國の教育
 當局が、何故屋内の幼兒學校を認可したかを疑は
 ずすには居られなくなる。

屋内では最上の幼兒學校ですら失敗を示してゐ

る。即ち土地を見出すにも失敗して居り、微風も吹かず、また英國の曇りがちな空には日光の恵も少ない。大い學校を持てゐる故に調査・研究をする事が出来る。そして診斷所の設備があつて、學校と聯絡が付いて居れば實際的の仕事が出来る。大い學校の偉大な價値は、さういふ學校が出来るといふ事實によるものではない、調査人員の多く平均數を表し得るといふ點にある。更に大なる價値は社會の模範を創造する事が出来調和する事が出来、同時に訓練を受けた教師のみでなく、社會の子供を愛する人や學生に對しても門戸を開放する事が出来るからである。此の事は確かに我々の希望して居る處であり、未來の母のみならず未來の教師も、未來の議員のみならず未來の子守婦と健康訪問者も、未來の醫師のみならず未來の社會の婦人もまた希望する處である。總の子供を愛する人は、彼等が、如何にして幼年時代によりよく

奉仕出来るかを學ばんと希望して居る。

米國は富である。大なる資金がある、目ざましい未來を持てゐる。又難題も持て居てる。計畫がすべて新しく困難である。我々は敢て米國に教へ又忠言せんとするのではない。我々が苦むした小さい時の塔から本國を見渡すと、我々は最近十年間多くの難しい試練を経て來てゐる。そして我々の目はどれ程多くの涙で洗はれた事であらふ。科學又は生活に於て眞に何等かの進歩を致した第一條件として、今我々は、地上の總ての我々の子供等を救はねばならぬ。現在我々は子供達總てを注意する事すら出来ぬ、我々は彼等の困難や疾病を取り除く事すらしてゐない、其故我々は、我々の學校の基礎に於て、新しい平均兒を造る營養を興へる事を望む。我々は學校と保育の新しい規定を生活の中に持ち來さなければ之を實行する事は出来ない。我々は今之を試みつつある。理想保育

に非ずして、十分に育てられた子供の世界を如何にして作るべきかは問題である。我々は、子供達が母を要すると同様に他の人をも要するといふ事を知つてゐる、我々は子供自身の家が彼の世界の振り出してある事を知てゐる。其振出しは子供が人生への唯一の出發點であつて、彼は二十歳になつて初めて好奇心を持ちはじめたのではない。二歳の時には生々として美しい。我々は、子供が成人の様に議論の出来ない事又成人にならぬ前にでも丁度産れる前から眼があるやうに、議論し得るといふ事を知てゐる。我々が子供が使用する事の出来ない、理解しない、價値を知らない物を與へなければならぬ。やがて知らず／＼の中に子供達は使用しはじめ、理解しはじめそして、價値をも少し知るやうにならせる爲に、其故我々は子供を大きな場所に連れて行き、何百といふ大きなクラスの一部になつてゐる群の一員とする。

彼は、自分のベッドから覆のある多くの花園を眺め得る、又遊び室から空を眺める事が出来る、枝の小鳥や森の小鹿を静まらせて置いてたとしても、種々な動作や噂が、彼をどれ程慰めるかは驚くべき事である。牢獄のように壁でとちこめない時、其處には活々とした、地上の生活を富まし形成させる印象の雨が注ぐ。此處に、今、我が教育に供給せねばならぬ大なる真理がある。單なる美辭には何も學ぶべきものはない。我々は訓戒に依て教へたり訓練したりする事は出来ない。中世紀の講義主義な仕方に盲従する事はも早や出来ない。唐黍の種を蒔くやうに、我々は新しい衛生學の説を播かねばならぬ。我々は母の腕の様に我々をかこむ自然の腕を感じ、自然を愛する事を學ばねばならぬ。

我々は計畫し織組立てなければならぬ、そして詩く人と種の爲に建設しなければならぬ。我々の

學徒園は殊更作らずともよい、收穫は明かである。我々は鍊瓦はないが多くの花を持てゐる。壁もないが種々な動物が居る。公認の訓練を経た教師は優れて居る。

我々は彼女を持たねばならぬ、勿論彼女は此世界を守る女王であつて母親以外には彼女のみが此世を支配して得るのである。母親は保育園を見たり又自分の随意に訪問する事が出来る、彼女達はこれまでのように子供に就て漠然と考へ、他の良くない事に費した時間の代りに最上の感じや考をたどる爲に今は元氣は晴れやかな新しい母になつて來た。彼女は其の大なる勤めに對してもう孤獨ではなく、家庭といふ壁によりてさへぎられたり縛られる事もない。

私は吾々のシエルタアについてはもうすでに何へんも言はれてゐるから述べやうとしない。それ等は子供を愛しそして子供の希望を理解した人に

よつて計畫されてゐる。

そして、それ等は、低い垣根や、小さい門の内に、六月の若葉のゆらぐ間から見えるひろい屋根や、陰多く掩はれて常に暑さや雨をさへぎる道となつて、實現されてゐる。又それ等は暖い戸内の浴室や、ひろい、長方形の走り場や、イタリアの大畫家の筆觸の如きやわらかさを以て畫かれた壁畫のある壁、彩色されたアーチ等となつても表はされた。

これは深い「愛の泉」からほとばしる愛によつてなされた事である。

「これは、きれいだ！」
と、誰でも此處に來た人は感じる、殊に藝術家や母達は一層感じる。

幼稚園は九時からではなく朝の八時から始まる。そして最初の間は色々な事をしなければならぬから最もいそがしい。

想像して御覽なさい。吾が三百人の母のうちの一人が、さへかへる一月の早朝、幼い兒をかかへて側には、三つか四つ位の子供の手をひいて、我が門へ入つてくる所を。

子供達はそんなに遠いところからは通はない、子供達は、近くの街にすんでゐる。そして、此所や他の町の人々は貧困のため、寒く、又大かたの人は、ねむたくさへなつてゐる。そこに、歓迎すべきものがある、親切の手は彼等を救ふべく延ばされた。

若い少女達は彼等の赤ん坊を熱心に歓迎する、空は灰色であつても、天幕は青や桃色の雨覆ひで晴れやかで若いばらの様な顔をしてゐる、小さい者達は彼等のシエルターである戸内の浴室へ行くするとそこには豊富に水は勿論お湯まで備つてゐる。そこで彼等は身體をあらためられ、洗はれ、そして完全に氣持よく出来てゐる僅かの衣服を、

個人個人に保育される様に、各自に適する様に着せられる。九時には朝食の席へ皆がつく。そして九時半には「霜さん」かその弟の「雪さん」が降るとそれに、知らず知らず足拍子をとつてゐる。

幼い子供達の天幕からは笑ひ聲や、小さい足のちよこちよこあるく音がきこえてくる。

一方、愉快に燃えさかる火の近くには新しく入つて来た者に、氣壓計が下つたから寒くなつたのだと云ふ事を初めて教へてゐる。

卓子の上や壁にそふて、彩色した圓板や、色のある毯や、織紙や、色を度合によつて並べたものや、組合はせる様になつてゐる文字や、繪や、繪本等色々な種類の器具がある。

その外に庭には、ブランコやすべり臺や、ふみ段等よい器具がある。私等はその一部分を冬には失ふが、全部ではない。

二年生がよく働く、彼等はたくさん習はねばな

らない事がある。お晝すぎには二品料理が二年生の當番のお給仕で出る。

十二時半には三百の小さい者達は寝ついてしまふ。そこには太陽の見舞はない日はない、夏か冬か、又は朝か午後、吾々は太陽の偉大なる治療力と歡喜とを子供達にもたらしめる。それは彼等の生れて來た時からの權利であつて、今再び彼等に戻つて來たのである、いつも、午後や、天氣のよい朝、彼等は太陽の照らすところで、遊びまわり働き、そして眠る。

これは吾々の最も速い治療法の根源である、一年とたたずに、すべての脊髄病は治つた。もう、貧血病もない、もう暗い死の恐怖や、死よりも惡いすべての物に對する恐怖もない。

夕食が濟んでから五時から五時三十分までに、長い列をした、子供達の母や姉達が回廊へ子供をつれに來る。子供の胸や眼が健康になり、そして

長い虚弱や不幸の嚴しい經路が段々とすぎ去つて行くのを知つて、喜び又不思議がる。もし子供がただせむし病だけの子供であるならば、他の色々な病氣はここで治つたのである。もし三つか四つの我々のどの幼児でもまだ、しせむ病であるならばそれは吾々は失敗した。しかし醫師は、吾々は失敗してはゐないと云ふだらう、この學校へ一年出席した後の子供には脊髄病はゐないと云ふだらう。

この仕事のすべての費用は、すばらしい値段ではない、それは各々の幼児につき、たつた、一年間に十一ポンド十五シリング(百十七圓五十錢位)しかかからない。

神はアメリカに「勇敢なる翼」を與へられた。そして、強く奉仕せしめ、早く飛昇せしめられた。我々は古い時代に、氣弱く、忠實を疑ひ乍ら開拓者が大なる犠牲を賭して始められた仕事を。

アメリカが如何に發達せしめ、そして成し遂げ

るかを眺めてゐる。

私は我が妹の事業の空しくなる事を恐れてゐた

しかしそんなことはない。

「正義な仕事は神の手の中にある」。(京子)

ジュネーブに於ける子供の家

ジオヨン・レスター

私は、バラス、デ、ナシヨンを出て、ジュネーブ湖畔の廣々した遊歩道を散歩した。朝の空氣の中にクツキリと晴れたモン、ブランの雄姿が巍然として聳えてゐる。がこの雄姿も今の私の心にはそう大してはつきりとは映らない。今私は、もつと小さい、もつと手近な事を考へてゐるのである。即ち或る有名な子供の學校の事を考へてゐるのである。この學校はジュネーブの郊外にあつて、ルッソー學院と稱し、熟練した親切な指導の下に監理されてゐる。私は紹介状を手にしてその校門をくゞつた。十月末であるのに尙ほ木々の緑は鮮

かである。その木陰に包まれてる美しい「小供の家」の廻りを歩いたり、茂みの裡の小道を辿つて行つたりする中に、私はその邊にある花園や、小鳥の囀つてゐる森の中にぼつ／＼と見える素朴な家に氣がついた。いかにも子供達が拵へたものらしい。併し、あたりは妙にしんとしてゐるので私は自分の來る日を間違へたのではないかしら等とも見へたが、とにかく參觀名簿を改めて見た、やつぱり今日は自分の來る日なのだ。安心しては入り、帽子や上衣をかけたがあたりのがみんな小さな可愛いのばかりなので、自分のが如何にも

不釣合に、異形に見えた。それから、中には入つて可愛い、十三人の主人達の仲間入りをした。

私は六歳の子供達が樂しげに語り合ふ話しを夢中で聽いてゐた。その中。デンプエンデル夫人は眞中の机の上に、美しい百姓家の模型をのせた。

この百姓家には厩舎も附いてゐれば、鳥小屋もある。兎小屋もあれば犬小屋もある、井戸小屋もあるし、豚小屋もあり、その上、青々とした緑の垣さへも、ちやんと附いてゐるのである。ヘンリーの犬や、マーセルの兎について、どんな質問應答や物語りなどが語られたであらう。「小さい樂しそうなお室!!」こんなよろこばしそうな叫び聲がきこえる。これはミヘルの聲である。ミヘルは軒下の小窓を開けて中を覗き込んだ。やがてラフエンデル夫人は門や家その他この家の附屬建物をとり外づす様に子供等に云ふた。子供達はどんなに嬉しかつた事であらう。門、垣、と順々にとり

外づされ、間も無くすつかり取り外づされてしまつた。

併し子供等は自分の受持の場所を取り外す時には大變に注意深い。何故なら、それがすつかり取り外されると、今度は再びその家を自分達で組み立てなければならぬ事になつてゐるから。

「第一片を持つてゐるのは誰?」と先生が訊ねた。

これ等に用ひられる各部には皆番號がつけてあるらしい。組み立てる時にはその順に従つて用ひなければならぬのである。家を組み立てたり、その附屬物をこしらへたりしてゐる間に、子供達は、それらの用法を説明したり、それに關しての經驗話等を語り合つたりしてゐる。かくして樂しい一時間と十五分は過ぎてしまつた。かうして小さい主人達は常用の事物に就てその名稱や作用やその他色、數、組み立て、扱ては何にも優つ

て全員の協同が大切である、といふ様な事を學ぶのである。

ラ・メイゾン・デ、プライの強み特徴ともいふべきことは、子供の創造的想像力で表現させる手段として、組み立て、といふ様な方法を採用してゐることである。即ち、子供のあり餘る創造力で、いろ／＼なものを組み立てたりさせて、思ふ存分に吐き出させてゐる、といふ點である。と云つてもこれは、この幸福な學校生活には入る子供の、最初の活動は、組立てに限つてゐる。學校生活の幸福は、組立てをさせなければ得られない、といふ意味ではない。何故なら、最も初期に於ける活動はそれ自身目的であり、對象であるからである。子供は、最初、自分自身の想像や、必要の方へ外界の物事を適應させる。以前の經驗が教へてくれる通りにしよう等と思ふのは、子供等が彼自身の目的を持つた個人的經驗を積んでから後のことで

ある。併し、組立ての長所は一例を挙げれば、シヤンプル・ド・カルキユールに於て見られる。ここでは子供は最初の經驗を數に關して得る。とは云ふものゝ、それは「總計」と云つた様の抽象的な事をして得るのではない。物にはそれ／＼違つた性質があり又、用途によつてそれ／＼の使用法といふものがあるが、シヤンプル・ド・カルキユールに於ては、一々これ等の實物をもつて建物をしたり、器具を製作したりして、數に關しての經驗を得るのである。かくして子供は、目的によつていろ／＼と導かれながら、だん／＼考深い活動をするやうになる。活動は又いろ／＼な事を考へさせる様になるのである。子供の發達の第三の階段ともいふべきものは、子供が或る困つた境遇に、うまく自分を適應させることを知つた時である。この時は、彼の作きは秩序立てられてゐるし、彼の活動はもう彼の考の僕であり、そして彼の考は

空なものではなく、きつと實行を伴つてゐるのである。

ラ・メイゾン・デ、プティ、の女の先生の、十二年間に互る觀察に依れば、子供の教育に用ふる材料は、子供の發達の下に述べる三つの階段によく順應するものでなければならぬ、といふのである。

最初の階段 三歳から五歳まで、

この時代の子供は、目的をも材料をも、自身の必要と想像にまで適應する。この時代は即ち、他に何の目的も無いそれ自身のための、運動神經的な、又は、筋肉的な活動の時代である。

第二階段 五歳から七歳まで、

この時代は、運動神經的な活動に、心的活動が加はる。そして機械的模倣から、段々と目的を持つた創造に變化して來る。

第三階段 七歳から一〇歳まで

この時代の子供は、或る困難な境遇にうまく適應する。感覺的穿鑿好きは、漸次科學的穿鑿好きに變じて來る。知的な活動が有勢になつて來る。

この學校で今用ひられてゐる材料は、この學校の女の先生と、ルツソー學院とが共に深く考へ、永年經驗した結果の產物である。モンテッソリーの教具は、自己指導といふことを目的として造られたものであるのに、物を組立て様とする止むに已まれない子供の欲求を充分に充ててくれる様には思へない。これは多分、モンテッソリー女史は初め異常兒に興味を持つて居たからなのであらう。それから、フレーベルの恩物は、組立てといふことを目的として考案されたのに、子供が取り扱ふものとしてはあまりに小さ過ぎる。それ故にこの學校の先生は、自分達が子供の活動をよく觀察

した結果、自分達で適當だと考へる材料（教具）を作つたのである。器具の或る物は單に、幼い男女兒の、自發的な組立てに對しての適應である。かくして五五球の算盤といふてゐるものが作られた。これを造るには、數週の間一人の女兒に糸と色をつけた球とを與へて、一、黄色、二、綠色、三、赤色四、藍色五、堇色、六、橙色、と順次に並べ得るまで遊ばせ、之をよく觀察して造つたのである。之等の教育遊具の製作に當つて、或る物は非常に、デリケートな手際と、精確さを必要とするが、この學校は、木工に於て非常に優れた技巧を持ち且つ又非常に熱心な精神を持つた協同研究者を有してゐたのである。

この器具の或る物は、既にアメリカによく知られてゐるが、尙ほこの器具の一組とされてゐる圓板遊び、數のとり合せ、ピタゴラスの正方形遊びの三つは今工場で製作されつゝあるのである。こ

れ等についても、紙數さへ許さば、述べる價值は充分にあると思ふが今日は述べないことにする。併し私は、組立の原理は、あらゆる正しき發達の基礎をなすものであるといふことを述べたいと思ふ。

子供達が各々模型の家を作り終へ、跡片附をしてしまつた後、食事をしたり散歩したりしようとして森の方に駆け出して行つた。やがてのこと、どやくくと歸つて來て別々の室に入り、各自は自分の名のはつてある机に向つた。その時私は低い笛の音をきゝつけた。この音は、このグループの子供達が、自分達のグループの秩序を整へるために特に撰んだ信號なのである。組立ての原理は、やがて、法則の作成の際にも適用しうるものである。かれこれ遊んでゐる中に、どうしてもゲームの規則は必要であるといふことがわかつて來た。いろ／＼話し合つてゐる中に、子供達は段々とな

かる様になつて来る。そして子供でも大人でも先生でも、規則には従はねばならないものだと思つて悟る様になる。

黒板の上に貼りつけてあるのは、紙の傳票であつて、机の上に貼つてあるものゝ複寫である。

「この名まへは何といふ名か、云へる方は？」とラフェンデル夫人はきく。

「それは、ウイリアムです」とシモンは答へた。

併し、シモソの答は違つてゐるらしい。彼の判断は精確にされなければならぬ。先生は黒板からその傳票を取り外し、チョークでもつて書いてある同じ名まへの下に持つて行つて、シモソの答は正しいかどうかをきくのである。かくして一人づつ黒板の傳票は外づされ順々にその保管をさせられる。今はマリーが保管せられてゐる。

やがて、ラフェンデル夫人はマリーから傳票を取り、手の中に入れてそれをごちや／＼にしてし

まふ。それから遊びは又始まるのである。先生は一人づつ子供を呼び出し、そして傳票を一枚だけ撰らせる。それからこの傳票と同じ名まへの貼つてある机を見つけて出すまで、その室中を探させるのである。私は、ラフェンデル夫人は札切り……に於ての老練家であるに違ひないと推斷した。何故なら、子供が自分のカードを抜きとるひまがない程に敏速に行はれるから。五分ばかりの間に、各自は、自分のネームカードを持つて席に着いた、手に持つてゐるカードは元は黒板に貼つてあつたもので、各自の机の上に貼つてあるのと同じものである。

さつきとは違つた低い笛の音がきこえて來た。今度はそのネームカードを黒板へ貼るのである。なか／＼細かい注意の必要な遊びだ。吾々はチョークでもつて吾々の名の書いてある黒板を見てゐる。その中に、ラフェンデル夫人は立つて行つて

電光の様に早くその名まへの一つを消す。すると消された名まへの子供は大急ぎで出て行つて、その空いた場所へ自分の傳票を貼りつけるのである。この時の傳票はこの遊びが始まつた時黑板に貼つてあつたものである。時々、躊躇する人もあれば又二人でちよこ／＼出て行つて各々其の権利を主張し合つては並み居る人々を笑ひこけさせるものもある。併し遂には全クラスの傳票が再び黑板に貼られるのである。

再び笛が鳴る、今度は、ラフエンデル夫人は電光よりも敏速である。

「電光よりも早くですか？」と(まじめな)マーセルが尋ねた。

「これは、六ヶ敷いかも知れない、でも試て見ませう」と先生は答へた。

こう答へながら先生はもう鞭を手にした。そしてこの鞭で、非常に速く黑板に貼つてある一枚の

傳票をさすのである。すると指された人は立つて椅子をきちんと机の内側に押しやり、それから大急ぎで室の外へ出る事になつてゐるのである。電光の様に名まへが指された。そこでレンは速やかに立ち上り、笑をこらへて椅子を押しやり、爪先き歩きでその室を出た。次にジエンが指された、ジエンは大急ぎでその室から走り出やうとした。が彼の出口は先生のやさしい腕で防がれた。先生の聲で彼は義務を忘れたことを思ひ出した。あゝ椅子！彼はそう叫びながら歸つて来て直して行つた。ルシイは嫉妬深い友達のためにあまり興奮し過ぎ二度やり直さねばならなかつたし、ナネツテはゆつくりし過ぎて、しかも自分の時でない時に出たりした。一人去り二人去りその室は段々と空になつて来る。

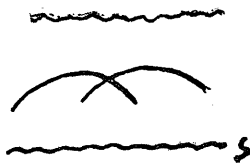
之等の讀み方遊びは、一度の注意も又非難も無しに、少しの興味を失ふこともなく、子供達が自

分達で作つた之等の規則以外には別段何の規則もなく四十五分間も長く續いた。

この面白い遊びをしかもこんなに熱心にするに至つたのは、新しい遊具があつたからである。この遊具は、木製の文字であつて、丈夫な點に於て奇麗な點に於て、又その長持ちする點に於て、從來の紙製、板紙製のものに比べ進歩の跡が見える。子供等は之等を自由に取り扱ひ思ひのまゝに並べて見たり又簡単な言葉等を綴つて見たりして遊ぶ。粘土や漆喰等でも幾組もの文字を拵へる。切り抜いて文字を拵へることもあれば、刺繡することもある。そして遂ひには、自分の名を好きな色でもつて書くことが出来る様になる。

私は獨り腰を下ろして自分の幼年時代のことを考へた。自分が始めて讀み方を習ひ初めた時のこと——ABCがひどく覺えにくかつたこと——例の「涙の要らぬ讀本」といふ、あの汚れた、背の

赤い教科書が、その書名を裏切つて、無慈悲にも自分を甚く惱ましたことなどをゆくりなくも思ひ出した。そして最後に自分の過去四十年間の歲月がわが幼兒教育の進むべき道を指示する上に、有益な、そして遠大な何等かの改革をば、果して成遂げ得たらうか、どうか、これは疑問であると思つた。(ふじの)



保育事項としての『觀察』に就いて

目白幼稚園 和田 實

幼稚園令が發布された。同時に保育事項の改正があつた。新保育事項として觀察が加へられた。

然も觀察のみではない。若し保育者が幼児教育上必要を感じるならば、そして夫れが幼児保育の全體に採つて有効のものならば尙此外に適當な保育事項を加へてもよいと云ふことである。何と云ふ自由な然も保育者を信用し尊敬した法令であらうか。外の教育法令に斯る例があるだらうか。小學校令と云ひ中學校令と云ひ、其學科目の如きは加除添削何れも明かに其範圍を限定して居つて都合のよい自由な科目の添加を許しては居ない。然るに幼稚園には保育者の責任ある教育的考察を信用

し、尊敬して保育事項(或は保育科目と云ふ)の自由な添加を認めて居る。吾人保育事業に従事するものは須らく其尊敬と信頼とに自重して、尊き自由を一層尊く使ひたい。即ち濫用したくないものである。

偕て、新保育事項として加へられた「觀察」とは果して何んなことか、其教育的原理は如何、其材料は如何、其保育方法は如何等と聞いて見ると吾れ、人、共に五里霧中の人が存外澤山ある様である。さりとは餘りに呑氣なこと、云はざるを得ぬ抑も現日本幼稚園協會の前身なるフレール會が明治四十一年の大會に於て保育事項の改正を文憑

省に建議してより茲に拾有九年(約二十年)爾來、日本幼稚園協會の絶えざる努力の結果に因つて今回遂に觀察は保育事項として加へられた。此絶えざる努力の二十年間保育者の多くは「觀察」と云ふ保育事項に就いて相當研究し且實施して居つた筈である。今回の改正に當り文部省の調査した所であると云ふのを漏れ承つて見ても相當に全国各地の幼稚園では、夫々案を設けて「觀察」を保育事項として行つて居つた様である。唯不審に堪えぬは保母養成所等の保育事業の指導に當る人々の講義や又其使用する教科書中に「觀察」を保育事項として取扱つて居らぬことである。即ち實際の幼稚園の保育には「觀察」を保育事項として取扱つて居る所があつたにも係らず、保育事業の指導者は一向之を保育事項として注意しなかつたと云ふ奇觀を呈した譯である。蓋し、是れが一部の保育者間に一向呑氣な人を生じた所以であらう。夫れは兎に

角として、私は茲に之に關し少しく説明して見やうと思ふ。遠く書を寄せて、質問せられた方や、近く態々質問に來られた方々は、うか御一讀を賜はつて今一度御考察下さつたら一層、思ひ合はされる所があらうと思ふ。

一觀察の意義、觀察と云ふ言葉は一體心理學の學術用語としては、「特に注意せられたる知覺作用」と云ふことで、一向保育事項として取扱ひ得る様な遊戯の種類とは受け取れぬものである。然ればにや、倉橋教授は保育事項として談話、手工唱歌、など、肩を並べることが如何にも不合理である。談話、手工、唱歌、等の保育事項中にも觀察と云ふ働らきは澤山あるもので、是等の心的作用なくしては談話も唱歌も手工も成り立たぬものである。然るに其同様な働き丈を抜き出して、一つの保育事項として取扱ふ様に見えるかと云ふて居られる。尤もな事である。「觀察」と云ふ文字を心

理學的に解釋しては斯様に考へざるを得ない。併しながら、保育事項としての「觀察」は必ずしも心理學的字義と同一内容のみを持たせなくても差支なくはなからうか、吾人は寧ろ保育事項としての觀察は心理學上の用語とは別の意義を持たせた方が好くはなからうかと思ふのである。二十年の昔始めて保育事項の改正をフレールベル會が建議した

時にも保育事項としての「觀察」の文字に就いては相當頭を捻つたものであつた。併し、何うも適當な言葉がない。談話や手工や唱歌に並ぶ言葉がない。併し「直觀」でもあるまい「庶物教授」では無論ない。矢張り「觀察」が一番判り易く穩當だらうと云ふので「觀察」の文字を使ふことにした。

同じ遊戯と云ふ文字も幼稚園の保育事項として遊戯と小學校に於ける體操科教材としての夫れとまた幼稚園の保育事項の全部を包含しての遊戯の意義とは必ずしも悉く同一でない。止むを得ない

ことである。是と等しく觀察の字義は心理學上には如何に定義せられ様とも、幼兒教育上の保育事項としては、夫れに係らず別の意義を持つて差支あるまいと思ふ。此意味に於て吾人は保育事項としての「觀察」の字義を新定したい。

觀察は保育事項の一としては遊戯の一種類と見做す可きである。子供は見物することが好きである。いぢくることが好きである。耳を傾けて物音に傾聽する。珍らしいものは、大きな目で眺め、可愛い手でいぢくり廻はし、叩いて見たり、打つて見たり、果ては口に入れて嚙んでも見れば嘗めても見る。氣に入れば飾つて眺めたり大事にするとして箱にしまつたりする。是れが幼兒の新奇な經驗に對する態度である。研究態度と云はうか、觀察態度と云はうか、實驗態度と云はうか、兎に角、幼兒は斯る經驗を反復することに因つて新たな智識を得、豊富な經驗を蓄積して行くのである。此

蓄積した、新智識經驗は入つては内觀作用に必要な觀念となり出で、は手工其他の發表的遊戯の材料となるのである。從來の幼稚園は此必要な收得的な經驗的な遊戯を無視して單に發表させるとばかり考へて居つた。入れることなしに出させることは手品師の外は出来ることではない。收得的遊戯を放任して措いて發表的遊戯のみをさせようとした所で、結果の甘く行く筈がない。是が新保育事項の添加された所以であらう。文部省は果して如何なる意義を持たして居るのか判らないが恐らく吾人の考へて居る所と大差はあるまいと思ふ。即ち遊戯の一種類として保育事項の一項としての觀察と云ふのは、新奇な經驗に對する幼兒の觀察欲經驗欲を満足させる所の遊びで、之に因つて幼兒は知覺力、判斷力を練習し、新觀念新經驗を蓄積し後來の發達に資する豊富な資料を收得するのである。

二、觀察の各方面、觀察の文字は動もすれば見ることに重きを置くかの様に見えるが決して、そんなものではない。心理學的に解釋した所で何も見ることはかりに關係しては居らぬ。聞くこと、さほること、かぐこと、味ふこと、皆關係して居る前項にも書いた通り幼兒の新經驗に對するや觀察し、玩弄し、愛撫し、鑑賞し、蒐集し、秘藏するものである。之を仔細に觀察すると凡そ四つの方面に分類することが出来る即ち(一)觀察、(二)實驗(三)鑑賞(四)蒐集である。觀察の四方面とも云ふ可きであらうか。

三、陝義の觀察、茲に云ふ觀察は陝義のものである。聞くこと、が主となるもので、一步進んで手を出して實驗する迄にはならぬ程度のものである。事物の觀察に興味を有し、事物其ものを知らんとするところの遊戯で、初めは刺戟の大なるものに注意し、漸次機械裝置の活動、人の作業

動物の活動自然の現象、天體の變化等に注意し、進みては動植物日常物品等に迄も注意する様になるものである。此遊戯の教育的價值は(一)感覺の發達(二)注意力の發達(三)觀念の増加等にあつて、兒童の心的要素の最初の輸入門たるものである。

四、實驗 見物したり傾聽したばかりでは満足出來ず、手に取つて兎見角視して、仔細に觀察し、更に叩いて音をきき、破いて中を見るなどすれば事物は一層明瞭に會得せられる。斯様に受動的觀察の位置より進んで發動的に手に取りて玩弄し、試験し、分解す、ることを楽しむもので、玩弄することによつて一層深き直觀を得、自己の取扱方如何に因つて、物の動靜、變化(運動、破壊)集散離合等の關係を知ることが出来る。子供には極めて興味あり、且有益なる遊びあること疑ない。其教育的價值としては(一)感覺の發達(二)目と手と

の連絡(三)動的觀念の増加、(四)外界の理解に對する進みたる効果、等は其重なるもので、從來の保育が最も缺陷とされたる部分の補足に役立つものである。

五、鑑賞 子供は氣に入つたものを飾つて喜んだり、人形を喜んだり、お雛様を悦んだり、小さな草花を可愛がつたり、美しき衣服を喜んだり美しき人に親しんだり中々に美しきものに興味を有するものである。此興味を適當に満足させて遣ふことは人生を價值あるものたらしむるに必要のことである。そして美を見るところの審美眼を適當に指導することは教育上大切なことである。教育的價值としては(一)美感同情の發達すること、(二)家庭感情の養はること多きこと(三)技能的發達の基礎を培養すること、(四)人格を圓美ならしむる上に役立つこと等である。

六、蒐集 氣に入つたものを集むることは幼兒

の時に喜ぶことである。何のために集むるか、何の爲めに摘むのか、咲いた花は摘みとることなしに眺めたらよさそうなもの、然も尙摘み集めることが必要なのは幼児の特性である。氣に入つたものは大事なもので、大事なものは深く秘藏する。さて秘藏して何にするか、唯秘藏するのみではあるが秘藏せずには居られぬ。砂利の中の小石を拾ふことに夢中になつたり、摘草や蜻蛉釣りに夢中になるのも皆同じで、斯る經驗其ものが得も云はれぬ満足を持ち來たすのである。集め得た結果や獲物其ものは大した價値はないのである。誠に面白い子供らしいものと云はねばならぬ。然も其教育的價値に就いては中々に捨て難き節が多い。(一)

多くの雑物の中より自己に必要なものを拾集することは之を心的作用より觀れば大變な教育的効果を齎すものと云はねばならぬ。故元良博士は此注意力練習品をさへ特製して、一般心力の練習に

資せんとした位である。(二)知覺判斷力の迅速なる練習(三)蒐集條件の保持、即ち注意力の持續の練習、等は其重なるものである。

七、材料の蒐集 觀察の材料は實に數限りなく多い。自然界、人事界に亘つて事物と云ふ事物悉くが幼兒には新經驗であり、新知識である。觀察し實驗し鑑賞し、蒐集す可きもの、至る所に存せざるはない。實に材料餘りに多くして却つて其取捨に苦しむ次第であるが、幼稚園の如き具案的豫定的幼兒教育をする所では相當に、各方面に亘つて遺漏なきを期さなければならぬ。然るに此遊びは何も幼稚園に限らず、幼兒の至る所で自由に遊んで居る所であるから、幼稚園の採用する材料が餘りに平凡で幼兒の自由經驗と重複しても却つて興味を薄らげる虞もあるし、旁、幼稚園の材料の蒐集方は中々困難なものである。吾人の實驗するところでは、觀察材料一覽表を作つて置いて、之

に因つて材料を整へ、時に偶然整へられたものを使用して、兎に角一材料を観察し終つた時は一覽表中に印を付けて其季中に其事項の終つたことを記す様にして行つたらば、徒に一方に偏より或は一方のみ重複する様なことがなくて好からうと思ふのである。次の數表が必要であると思ふ。

(一) 實物及標本、(二) 玩具(三) 工場及作業の實際(四) 繪畫(五) 天體(六) 街上一覽(七) 自分の家他の家(八) 實驗各表の分類法は甚だ科學的でないが是が却つて實際には便利である。徒に分類のみ科學的でも實際に役立たぬものは必要がない。

八、實物及標本 (前后不同に内容のみ記して表の形式を略す以下皆同じ)

櫻、梅、桃、椿、藤、ドングリ、ばら、栗、菊
牡丹、豆の花と實と葉、麥、瓜、稻、柿、あやめ
つゝじ、山吹、ちゆりつぶ、ゆり、朝顔、晝顔、

桔梗猫やなぎ、すゝき、いてふ、とうもろこし。

毛虫、芋虫、蠶、鷄、金魚、蝶、蟬バツタ、猫
犬、オ玉杓子、蟻、雛、龜、目高、蛙、風船虫、
どせう、ガチャく、馬追、とんぼ、やんま、雀
鳩、地虫、鰻、鯉、鮎、蠅、アブ、コホロギ、チ
ヤボ、カマキリ、ミツバチ、鼠、鳶、アヒル、狐
猿、蛇、トカゲ、イタチ、狸、馬牛、石の色々、
金のいろく、氷、雪、霜柱、つら。

九、玩具 具

機械體操、觀覽車、金棒サガリ、五月人形、雛人
形、玉コロガシ、自動カブト虫、二人輕業、龍吐
水、噴水、泳ぎ金魚、玉吹上げ、水出し廻り、水
汲上げ、米搗き、起き上り小法師、彌次郎兵衛、
綱渡り、角力人形、電車、汽車、紙風船、コマ、
繪かるた、坂下り、自動猿、自動車、景色廻り、
自動人形、磁石廻し、組重ね、實體鏡、籠鳴鳥雀
飛び、蓄音機、水車、ポンプ、寫真、浮いて來い

萬花鏡、計數器、擊劍使ひ、風琴ゴマ、鬪球ゴマ、

變色眼鏡、廻り活動、鐵道遊び、繪合せ、蛙飛、

鬪球盤、活動寫眞、電鈴、暗箱、眞似笛、曲ゴマ

射的、砂時計、魚釣、廻燈籠、時解、外車汽船、

青寫眞、萬花鏡、水汲し、望遠鏡、顯微鏡、オル

ゴール、玉投げ人形、七巧板、十六眼鏡、電

氣踊、變色ゴマ、双眼鏡。

十、繪 畫

植物畫帖、春の風景畫、風俗畫、虫類畫帖、鳥類

畫帖、蝶類畫帖、略畫帖、桃太郎畫帖、手技圖形

獸類畫帖、舟車畫帖、子供遊戲畫帖、花鳥圖譜、

武者繪圖、魚類畫帖、工人作業圖、蔬菜畫帖、風

景畫帖、水産畫帖、歴史掛圖、地理掛圖、物産圖

譜、交通圖、狩獵圖、兵士操練圖、女禮式畫帖、

萬國々旗圖、時事畫報、

十一、天 體

日、月、星、雲、日蝕、月蝕、録河、彗星、夕燒

朝燒、北斗。

十二、街上所見

人々の服裝と職業、活動のいろく、交通機關、

店々の様子、飾り窓觀察、出來事の色々、商品の

色々、行列參觀。

十三、自分の家と他の家、

家の構造の色々、間敷の色々、家族の種類、庭の

造り方、葬祭行事。

十四、實 験

シャボン玉、磁石の實驗、靜電氣實驗、惰性の玩

具、寫眞實驗、活動寫眞、風船、ゴム球、霧吹き

十五、園外觀察

お庭物見一、二、三、學校參觀一、二、三、鍛冶

大工、佐官、製紙、土工、下駄屋、靴屋、足袋屋

製絲、ペンキ屋、畫工、看板屋、豆腐屋、植木屋、

飴屋、新粉屋、轆轤細工、旋盤工、竹細工、籐細

工、指物師公園、動物園、摘草、小石拾ひ、ドン

グリ拾ひ、

十六、材料選擇の條件、(一)興味あるものを探れ、如何に有益なりとて子供に興味なきものは何等の價値もない。(二)には季節に相應はしきものを採れ、材料は得易いし、興味も多い。(三)には成る可く多種多様に亘り一方に傾かぬに採ることが必要である。尤も一時に多數の材料を用意せよと云ふのではない。(四)郷土的なる可し、郷土の特長を取入れる爲めと今一つは郷土の偏傾を矯める爲めに、(五)教育最終の目的を考慮して之に統一せんことを努め之に背馳せざる様注意を要す。

十七、觀察の一般方法

小學校の授業と違ふ、理科の教授をするのではない。豫備知識の整理も何もない。子供と材料の準備が整つたら、(一)材料の全部又は一部分づゝ直に提示す可し。提示したならば全部の兒童に充分觀察せしむることが必要である。大きなものなら子

供の位置を動かし、小さなものなら品物を持ち廻はつて、各個に充分に多方の感覺を以て觀察させることである。(二)觀察は一度では充分でない、二度でも三度でも反復することが必要である。

(三)觀察の要旨は子供の觀察反應即ち觀察時に於ける種々なる心狀發表を注意し、之に伴ふて、保育者の賛否の表情を以て或は肯定し或は否定し或は賞勵し或は黙殺してすることに因つて誘導するがよい。特別に注意す可き簡條も成る可く此時に指示するのが便利である。(五)材料の用意充分ならば觀察後改めて一個を渡し、全體を改めて觀察し鑑賞せしむ可し。大事に自宅迄持ち歸つて母親に捧げしむるがよい。

十八、指導上の諸注意、

(一)妄りに干渉す可らず。保育者の或ものは兎角子供に世話を焼き過ぎて、此處を見よ、其處を注意せよ、そうせよこうせよと、有ゆる干渉をす

る。「遊戯は自由」の原則に戻るもので、自立主義を重んずる教育の排斥するところである。殊に材料豊富にして幼児一人に一個を興へ得らるゝときなどは子供同志の刺戟の外、あまり大なる刺戟を興ふることは成る可く遠慮して、幼児が獨自、靜かに觀察し得る様、注意す可し。

(二) 幼兒の質問を歓迎し適當に處理す可し。適當に處理することが困難かも知れないが、是が保育の生命の懸る所である。努力して善處す可しである。兎に角、幼兒の質問に對しては満足する様な答辯を興へることが肝要である。之に因つて幼兒は更に第二第三の質問を起し來る様興起せしめなければならぬ。(三) 觀察の諸點は凡て幼兒の發達程度に副ふて適當の處に止め置く可く、決して程度を超して深入してはならぬ。幼兒の直觀力の届く所に於て満足す可きである。(四) 虫類の實驗は往々にして殘酷なる結果に終ることあらば止む

を得ざることなれども、益虫なるときは成る可く殘酷なる結果に陥らぬ中に放し遣る様にするを要す。玩具類が實驗の最後は漸次破壊せらるゝは止むを得ざることなれども、成る可くは修理して再び元の狀態に歸らしむることが必要である。

(五) 材料の種類に因りては幼兒の嫌ふものあり、衣服其他を汚すことあり、また特殊の器具を要することあり、夫々其特殊の事情に應ずる準備あることが必要である。

(六) 保育者の智識の有るに任かせて新智識を注入教授してはならぬ。觀察は直觀の遊びである。內觀的理法や實驗し得ざる新智識を注入してはならぬ。(七) 園外保育に就いては必ず飲用水と排便に關する用意とを決して忘れてはならぬ。お庭の拜見に出掛けるとしても同様である。

十九、保育事項として「觀察」の位置、最後に觀察の位置に就いて述べよう。

觀察は保育事項としては最も初めに排列す可き性質のものであるが、新幼稚園令には三番目に上げてある。何故に三番目に上げたのかは判らぬが兎に角不似合のものである。觀察は初めにも述べた通り幼児の遊びの最も初めの部分を占め、凡ての経験、觀念智識の入り来る門戸であつて、後の各種の遊戯即ち保育事項の基礎をなすものである

觀察を基礎材料として談話も唱歌も圖畫も手工も出て来るものである。此自然の順序は保育上にも應用す可きである。法令には三番目に書いてあり或書には最後に説いてあつたとしても保育上に於ける「觀察」の位置としては最も初めに來る可きもので、凡ての保育事項の基礎となるものであることは忘れてはならぬ。

砂のトンネル

土 川 五 郎

ぎん砂……………両手掌を向き合せ肩巾の間隔を取りて體前より頭上にあぐ。

さらさら……………左足を引き蹲踞しつゝ、兩手を左右山形に方向に開く。

もりもけて……………兩手にて砂山の裾より次第に上へと叩くごとくすること三回。

お山が……………甲乙兩生互に兩手を取り軽く跳躍して左足を出し右足を引く(蹲踞したま)ゝ此の時

兩生共に左肩を下げ顔を右上に向く。

てきた……………又跳びちがへて右足前に左足を引き右肩を下げ左上を見る。

たかい……………兩手を左右より下へ下より體前上へあぐ(この時直立す)。

たかい……………再び兩手を左右より下へ下より前へまはす如くにして上へあぐ。

おやまに……………甲生は右手にて乙生の右食指を軽く握る。

トンネル……………それを高くあぐ。

くりぬいて……………甲乙兩生各自に自分の腕をくぐり甲乙生共に圓の中心に向つて左向(即ち右肩を圓

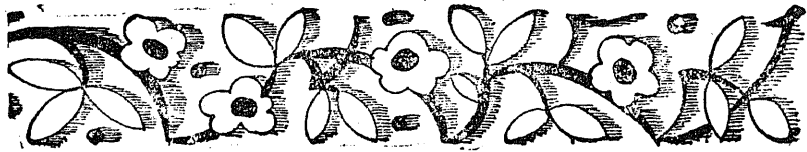
の内方に向く)をなし兩手を前生の肩におく。

おもぢやのきしやを…三步前進して止まる。

ビー……………一跳躍をなし左足を左側方に出しつま先をあげ上體を少しく右に傾け顔は右上に向く(兩手は前と同じく前生の肩におく)

ゴ—……………其儘

ゴ—……………一跳躍をなし左足を戻し右足を右側方に前と同じく出し上體をやゝ左へ傾け右上を見る。



創作 童話 『春雄さんと蟻』

和歌山幼稚園 中村楠雄

主眼點

春雄さんは道遊びをすることが大變好きになつた。或日蟻の巢を見てゐて遂にれむりこみ、面白い夢や恐ろしい夢を見たが、其の間に蟻にかまれ、とうとう病氣になつた。

時間 十五分

其他 話者は教訓を餘り強く頭に置かぬ様にした。

春雄さんも今年から幼稚園へ行つてゐます。毎日休まないで元氣よく行つてゐます。

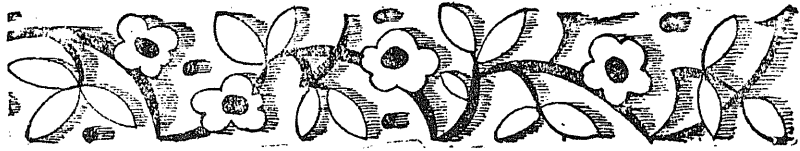
春雄さんは始め、幼稚園へ行く道を知りませんでした。お母様に教へて頂いてから、

よく分りました。それでも今毎日一人で行つたり、歸つたりして居ります。其の途中

に公園があります。公園の中を通ると、春雄さん達の好きなことが澤山あります。

テニスをしてゐる事もあります。ベースをやつてゐる事もあります。また運動會をしてゐる事もあります。その他、お花も咲いてゐますし、熊さんや、お猿さんや、リスさんや色々な鳥さん達もゐます。

けれども始めの間は、おうちへ早く歸りたかつたから、何にも見たくありませんでした。



毎日、幼稚園へ行つてゐる間に道も一層よく分つてくるし、つれて歸るお友達も出來て來ました。

或日お友達と公園を通つて歸ると、どこかの學校の運動會がありました。するとお友達の鐵ちゃんか。

「春雄さん、運動會見て行かう」

と言つたので、春雄さんも見ました。するとカケッコや、お遊戯などがあつて、大變面白い。うござゐました。

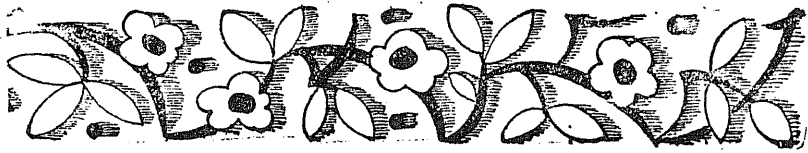
其のあくる日、また公園を通つて歸る時、お友達の源ちゃんか。

「春雄さん、今日はね、あの動物園見て行かない!!」

と言つたので、春雄さんも行きたくなりました。それで公園の動物園の所へ行きました。するとどうでせう!!熊さんの所へ、大勢の人が集つてゐるではありませんか。

「なんだらう?」

と思つて春雄さん達も走つて行きました。すると暑くなつて來たので、熊さんが大喜びでお水をあびてゐる所です。ドボンと水溜へ這入つたかと思ふと、またドツと飛び出て來ます。そしてブル〜と體をふるはせると、お水が春雄さん達に、かゝる事もあります。何



べんかそんな事を繰り返して、喜んでゐます。春雄さん達はそれを長く見てゐましたが、それから鶴さんが長い喙で、流し口から落ちる泥鰯をうけるのを見たり、リスが大變お上手に落花生の皮をむいて、たべるのを見たり致しました。

そして歸らうと思つて、こちらへ來ますとバツタリと春雄ちゃんのお母様に出會ひました。すると

「春雄ちゃん、まあこんな所にゐたのですか。お母ちゃんが心配して、心配して今幼稚園へも行つてお尋ねして來ましたのよ。もうね、決して道遊びをしない様に致しませうね。」

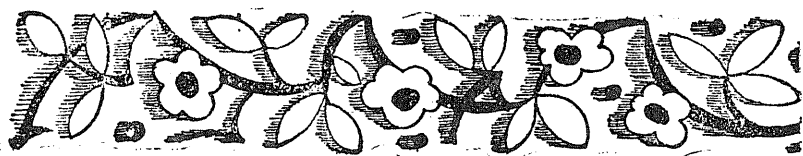
お母ちゃんの可愛い春雄ちゃんが、どこかへつれて行かぬたらどうしませう。」とおつしやいました。

あくる日幼稚園へ行きますと、幼稚園の先生も

「春雄ちゃんも、其のほかの方も、皆んな途中でお遊びをしないで、サツサとお歸へる様に致ませう。」

と、おつしやいました。

けれども公園を通ると、面白い事があるので、ちぎ遊び度くなります。それで春雄ちゃん、先生やお母様のお言附をきかないで、やつぱり道遊びを致して居りました。そして



此頃ではお友達がなくても、一人でも道遊びをする様になりました。

或日春雄ちは一人で、幼稚園から歸つて來ました。そしていつもの公園の中を通るとふと面白いものを見つけました。何でせう。それはね、蟻さんの行列でした。澤山の蟻さん達は筋になつて、向ふへ〜と行きます。それで春雄ちは、

「どこまで行つてゐるのだらう」

と思ひました。

それから春雄ちやんは。

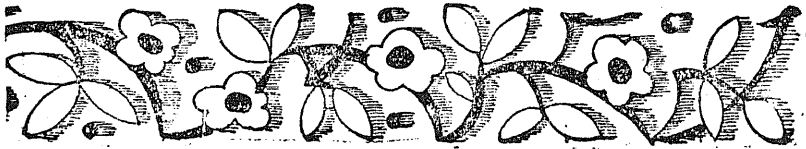
「ヨシツ、僕はついて行つてやらう」

と考へました。そして蟻さんの行列をつたつて、すんすん向ふへ行きました。

すると、とう〜おしまひに、土がもこ〜と高く盛り上つて小さなお山のやうになつてゐる所へ來ました。そして其のつてべんに、小さな穴が二つか三つあいてあります。其穴の中へ蟻さん達が、皆んな這入つて行きます。

「アア、ここは蟻さんの巢だなッ」

と思ひました。ちつと立つて見てゐると、すん〜中から出て來るものもあります。何だか俵の様なものをついで這入つて行くものもあります。また大勢でミミズやトンボなどを、



エツサクとひつぼつて来るのもあります。餘り面白いので、春雄ちゃんはどうもそこへ座り込みました。そしてまたちつと蟻さん達を見てゐました。するとね、蟻さんの穴からおかしなものが出て來ましたよ。オヤ、何でせう、よく見ると洋服を着て、鐵砲をかついで、小さな蟻の兵隊さんです。

そして春雄ちゃんを見ると、お手々を元氣よく擧げて、シツケイを致しました。それで春雄ちゃんも、元氣よくシツケイをしました。すると今度は其の兵隊さんは

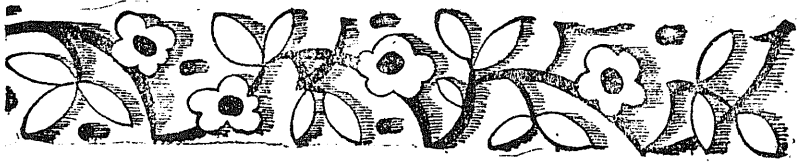
「春雄さん、王様のお使でお迎へに參りました。僕達のおうちに來て下さい。」と申します。

「だつて僕はそんな所から、這入れないもの。」
と春雄ちゃんは答へました。さうすると

「イエ、ソーラこれなら這入れませう」と申します。

そしてお手々を三べん、バチン、と打ちました。すると其の蟻さんの穴は、ス、と大きく、と大きくなつて、とうとう鐵の大きな御門になりました。そして

「サア、お這り下さい。」



と申します。それで其の御門の中へ、這入つて行きますと、もう澤山の蟻さん達は、ズラリとならんでお迎へに出てゐます。其の中を通つて、とう／＼お玄關につきました。すると今度は將校さんの様な蟻の兵隊さんが出て來て。

「サアお上り下さい。王様がおまぢかねでございます。」

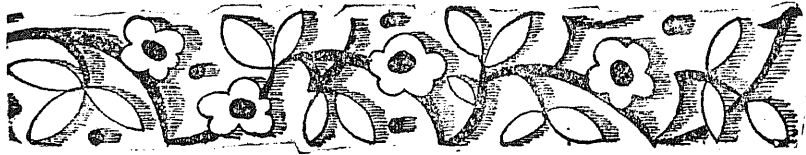
と申します。それで其の將校蟻さんの後へついて、お玄關を上つて、ずつと／＼奥のお部屋に參りました。

其の時將校蟻さんは

「ここは王様のお部屋でございます」

と言ひながら、スツとお部屋の入口をあげました。さうすると其處は奇麗なく、そして大きな／＼お部屋でありました。

其のお部屋のずつと向ふの、一段と高い所に、ピカピカと光る冠をいたゞいて、奇麗なおべへをお召しになつた王様がお出でになります。其の王様の後には、長刀をもつたのや刀を持つたのや、大きな團扇のやうなものを持つたのや、色々のものを持つた、家來の蟻さんもずつと並んで居ります。又王様の右側にも左側にも、ズツと澤山の奇麗なおべへを着た蟻さん達も並んで居ります。そこで將校蟻さんは、王様に。



「王様、春雄ちゃんがお出でになりました」

と申上げました。すると王様はニッコリと、お笑ひになつて。

「をを春雄ちゃん、よく来て呉れましたね。サア〜もつとこちらへいらつしやい」

とおつしやいました。それで春雄ちゃんも元氣よく、前へ進んで行つて、おじぎを致しました。すると王様は。

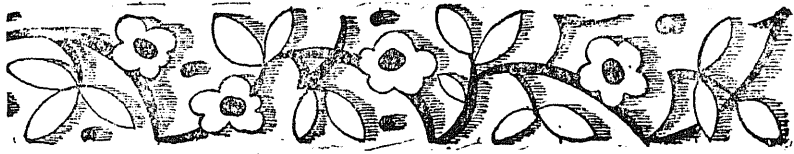
「サア、春雄ちゃんに何かお遊戯をして、見せてあげて下さい。」

と申します。するとどこからか、きれいな〜よい樂隊の音が聞え始めました。それと一緒に其の王様の後のも、右側のも、左側のも、皆んな一度にサアツと立ち上つて、奇麗なおべべの袖を、ひるがへしながら、よく調子を合せて踊り出しました。其の美事なこと、美事なこと、あまり奇麗でありましたから、春雄ちゃんは思はずお手をバチ〜と打ちました。其のうちに其の踊りがすみますと、王様は今度は春雄ちゃんに向つて。

「春雄ちゃん、春雄ちゃんは幼稚園でお遊戯をならつてませう。今度はそれを見せてほしいね。」

とおつしやいました。元氣な春雄ちゃんですから

「ハイ」



とお返事をして、すぐに立ち上つて、大勢が見てゐる真中の方へ進んでいきました。そして蟻さんのピアノに合して、上手に踊つて見せてあげました。さうすると王様はじめ、澤山の蟻さん達もすつかり感心して、皆んなパチ／＼と手を打つて、春雄ちゃんをほめました。

それから王様は

「春雄ちゃんに御馳走をしてあげて下さい」

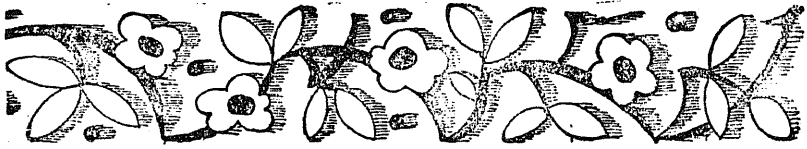
とおとおつしやいました。すると

「ハイ」

と云ふお聲が、どこかで聞えたと思ひますと、奇麗なおべべを着た方が、何かお膳の上のせて、こうささげて(さ／＼)げてあゆむまねをするしづ／＼と春雄さんの前に來ます。そして春雄さんの前へ、それを置いて、禮をしてあちらへ行きます。そんな方が後／＼と來て、色々のものをならべました。春雄さんは

「どんな御馳走か知ら」

と思つて一寸見ますと、オヤ、一番始めのは、好きな好きなお饅頭、其のつぎはチョコレート、それからリンゴにバナナ、カルピスもあればソーダ水もあります。お魚もあればおすしもあります。



「ヤアいろ／＼御馳走があるなあ」

と思ひました。其の時王様が

「サア春雄ちゃん、春雄ちゃんのお好きなものがあつたら、何でもおあがり下さい」

と申されます。そこで春雄ちゃんは、どれからいたゞかふかと思ひましたが、先程からお

遊戯をして、お水をのみたくなつてゐましたので、一番始めにカルピスを飲みました。

蟻さんのおうちのカルピスは、大變おいしうございました。それからおすしも、お魚も、

チヨコレートも、バナナも、色々いたゞきましたので、お腹がいつぱいになりました。其

の時春雄ちゃんは、もう歸らうと思ひました。それで王様に

「もう僕歸りなくなりました」

と申上げました。そうすると王様は

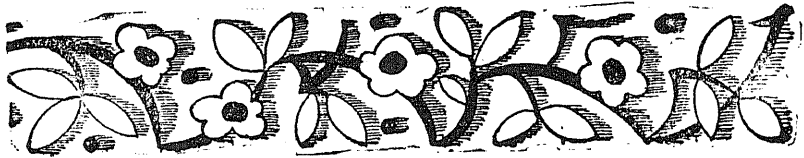
「さうですか。それではまた来て下さいね。誰か春雄ちゃんにお土産をあげて下さい」

と申されますと、家來の方が風呂敷を持つて来て、春雄さんの前へひろげました。そして

それへバナナやら、リンゴやら、お饅頭やら、まだ其のほかに、汽車や、自動車やサーベ

ルや繪本などの、お玩具もどつさり包んで呉れました。

それから春雄ちゃんは、王様や其の他の皆んなの方に



「左様なら」

を言つて、今貰つたお土産を、ヤッコラサと持ち上げました。随分重かつたのですが、一人でかついで、前の御門の所へ來ました。するとこれはどうしたのでせう。いつの間にか御門はなくなつて、元の小さな蟻さんの穴になつてゐます。サア春雄ちゃんは出る事は出来ません。急に悲しくなつて、ウワフと泣き出しました。泣いたらそこから一面眞暗闇になつてしまひました。

其時春雄ちゃんの上で

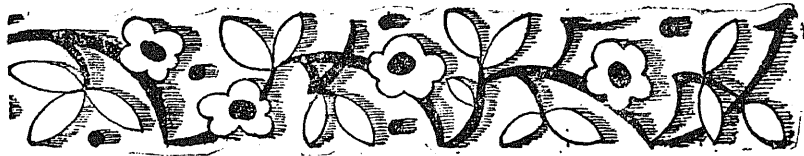
「春雄ちゃん、春雄ちゃん」(細く強い聲で)

と云ふお聲が聞えました。春雄ちゃんはふとお顔をあげると、眞白いおひげを、スウツと長くはやして、眞白いおへべの様なものを、お召しになつた方が、立つて居られます。あゝ、それは神様です。春雄ちゃんも思はずおじぎを致しました。

すると神様はまた

「春雄ちゃん、あなたは毎日道遊びばかりしてゐますが、あしたからは、さつさとお歸る様に致しませうね」

とおつしやいます。けれども春雄ちゃんは、まだ道で遊びたかつたから、だまつてお返事



をしませんでした。

「春雄ちゃん、お返事がありませんね、サアはつきりと、もう道遊びを致しませんとおつしやい」

と仰せになります。それでも春雄ちゃんは、だまつておました。さうすると今度は神様は大變御怒りになられて

「よろしい」

と強くおつしやつたかと思ふと、其の白いお姿がスツと消へてしまひました。

神様のお姿が、なくなるのと一緒に、急に春雄ちゃんの體中が痛くなりました。春雄ちゃんは

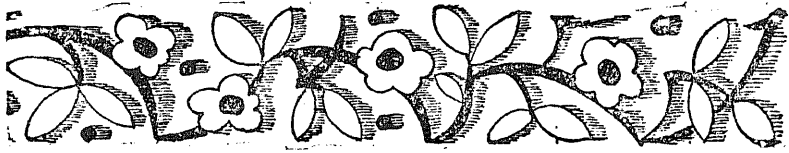
「イタツ、イタツ、イタイ、イタイ、イタイようツ、イタイようツ。」

と言つて、泣いて苦しがつておました。

其の時また

「春雄んさ、春雄さん」

と言つて頭をたたく方があります。それでひよつこりお眼々をあけて見ると、それは春雄ちゃんのお母様です。そして



「春雄ちゃん、まあどうしたと云ふの。公園の中で、おねんねなんかしてゐて。……おねんねしてゐる間に、誰かにつれて行かれたらどうします。そして春雄ちゃんは泣いてゐたのね、夢でも見たの」

とおつしやいました。それでも春雄ちゃんは、やつぱり體が痛くて仕方ありません。

「痛いよう、痛いよう」

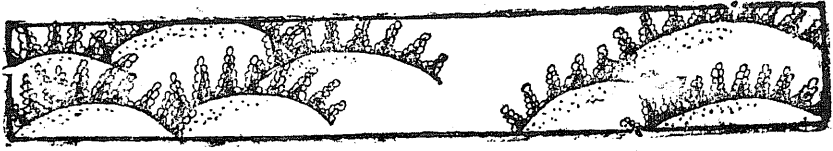
と言つて泣きやみませんでした。それでお母さんは、どうしたのだらうと思つて、春雄ちゃんのお服を脱いで見ますと、これはく大變、春雄ちゃんのお服の中へ、蟻が澤山這入つて、體中へかみついてゐるではありませんか。お母さんはびつくりして

「まあ、これはこれは」

と言ひながら、春雄さんのお體や、お服をはらつて下さいました。それから春雄ちゃんは
お迎へに来て下さつた、お母ちゃんとおつしよに、おうちへ歸りました。

おうちへ歸つてから、春雄ちゃんのお體が、赤くはれて来て、大變な熱が出て來ました。
サア大變、お医者さんに來て頂くやら、氷で冷すやら、お騒ぎになりました。

そしてお医者さんから、三日程幼稚園を休むやうにと、言はれました。それで春雄ちゃん
は好きな、好きな、大好きな幼稚園をとうとうお休み致しました。それから春雄ちゃん
は、決して道遊びをせぬ、よい子供になりました。(大正一五、七、二)



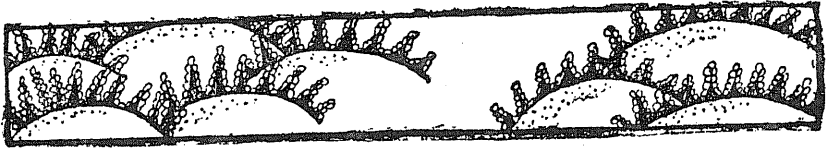
童話『兄ちゃんのだら』

一五・七・二・堺第一幼稚園にて全園児に話す

大塚 喜一

此の前に幼稚園へよせて頂いて、お話をしたりお遊戯を見せてもらつたりして面白く遊びました。あのお家へ歸つてしばらくしてから、兄ちゃんはお風呂へ入らうと思つて洋服をぬがうとしますとボタンがひつかかつて取れないのです。オヤと思つてよく見るとそこにはいつか知らぬ間に髪の毛が三本程引つかゝつてゐます。多分幼稚園でお遊びしてゐる間にどなたかのお毛がひつかかつてたのでせう。「どうしやうか知ら。どなたのだからかわからないから返されないし。」と兄ちゃんも暫らく考へてゐましたが外に仕方がないのでそれを紙に丁寧に包んでポケットへなを^なして置きました。それからお風呂へ入つて御飯をたべて電車に乗つて京都へ歸りました。

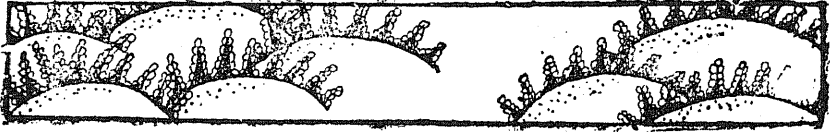
京都へ着いた時分にはもう日が暮れてあたりが暗くなつてゐました。電車を降りてから高い松の木の澤山に生えた道をお家へ歸りかけました。そしたらね高い木の上から螢が青



い光をポツポツと出して段々下の方へ飛んで降りて來ます。僕はハンカチでそれをとつて大事に包んで持つて歸りました。歸るとその螢をお部屋の中へにがしてやりました。電氣を消してお寢間へ入つて青い光を見てゐると螢はスーッとと飛んで床の間の花に止りました。兄ちゃんはそのを見ながらいつの間にか寢入つてしまひました。

すると夜中に誰かが「兄ちゃん、大塚の兄ちゃん」つて呼びますので眼を開いて見るとそこには螢の風をした後へ青い提灯ちようちんの様な火をつけた可愛い、女のお兒さんが立つてゐらつしやいました。兄ちゃんは幼稚園のお兒さんか知ら？と思つて「ハイ」と返事をするところの螢さんは「兄ちゃん、今日あなたの洋服にひつかかつてゐた髪の毛はよいものですから大事にして置きなさい。學校へ行きしなにはそれを親指に、お山へ登る時は高々指に、さして好きな幼稚園へ行く時はそれを小指に巻いて行きなさい。」と云つて呉れました。

翌朝眼が覺めると兄ちゃんは寢卷のまゝですぐ洋服のポケットを探しました。そして昨日の紙包を開いて見るとビツクリしました。昨日の黒い髪の毛はきれいな金色に變つてゐるのでした。そこで螢さんに教へて頂いた通りにそれを親指へ巻いて學校へ行きました。するとその日は先生の仰おつしやる事がよく解わかつて大層よく勉強が出來ました。その日の夕方になると近所にゐる小學校四年生の生徒さんが二人で「兄さん螢とりに行きませう」と誘



ひに來ました。そこで長い竹の先へ、さを付けて

螢來い〜

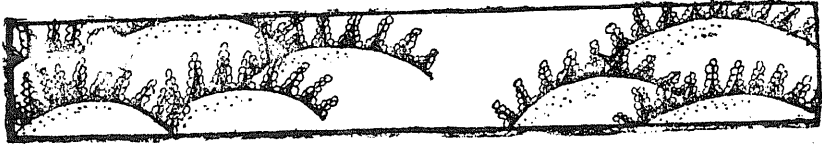
晝はお母さんの乳飲んで

晩には提灯高のぼり

と歌ひながら螢取りに出かけました。あつちこつちと螢を追ひかけてゐる中に僕一匹の螢を追ひかけて遠くの方へ行つてしまつてゐました。するとその螢はスーッと飛んで歸つて來て僕の耳の所へチョンと止つて

「兄ちゃん、幼稚園へ連れて行つてあげませう。」

そんなに云つて又先へ飛んで行きましたので兄ちゃんはその後からドン〜走つて追つて行きますとお山の麓の廣い野原へ來ました。向うの方には螢の光の様な色の、大きな螢の様なものが點つてゐます。段々側へ近づいて見るとそれは大きな螢の飛行機でした。僕は螢さんの云ふ通りにそれに乗せて貰ひました。前の方にはさつき僕に話をして呉れた様な螢のお嬢さんが乗つてゐてハンドルを廻すとプロペラがくる〜と廻つて、靜かに飛行機は動き出し頓て上の方へ昇つて行きました。下の方には街の火がきれいに並んでついでゐます。それが段々に動いて遠くへ見えなくなつてしまふと、僕は飛行機の椅子へつか



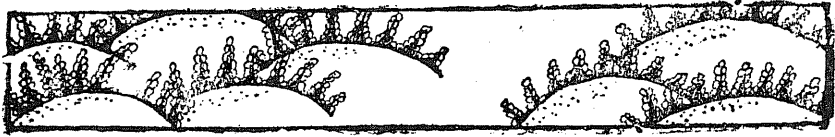
まつたまゝお眼々をつむつてじつとしてゐました。

頓て急にあたりが明るくまるでお日様がさした様に赤くなりましたのでふと眼を開けて見ると、兄ちゃんはいつの間にか幼稚園の砂場の所に來てゐました。砂場には山にはトンネルがあり川には橋がかゝつてゐてその間を汽車が通つてゐるなど、而白い景色が上手に出來かかつてゐる所でした。それにわるさの男の兒が折々それをつぶさうとするのです。

兄ちゃんが止めてもきかないで又しても壊しかかります。その時兄ちゃんはその金色の糸を思ひ出し「あ、いゝものがある」とそれを小指へ痛くなる程しつかりと巻きつけますともつ其のお兒も壊しに來ない様になつて、みんなで上手に出來た砂場の景色を眺めてゐました。その中お時間が鳴りますとみなさんはきれいに並んで此の遊嬉室へ入つて下さいました。

會集の初に少しのお唱歌をしてから、みなさんのお望に依り兄ちゃんは『夢の戦争』といふお話をしました。その時皆さんはいつもよりは一層面白さうにそして一生懸命に聞いて下さいましたので大層うれしく思ひました。それでお話がすむと次の歌を歌つて皆さんに聞いて頂きました。

ボクハ コタチガ ダイスキヨ



マルイ オカホデ ニコニコト

イツモ カワユク ゲンキヨク

ミンナ ナカヨイ オトモダチ

ボクハ ミナサン ダイスキヨ

オメメ バツチリ オトナシク

オテテ タタイテ オモシロク

オハナシ キイテ クダサルヨ

センセイ モ コタチ モ ミナスキヨ

カワイイ シヨウカ ヤ オユウギヤ

マタ オモシロイ オケイコ デ

ミンナ ナ ナ カヨク アンビマシヨ

唱歌が濟むとみなさんは急に兄ちゃんのぐるりへよつて来て大勢で兄ちゃんの身體をワツシヨイ〜と高くさし上げなされたので、兄ちゃんは困つて「コワイ〜」と云つてゐると、バツと眼がさめました。

兄ちゃんは今迄面白い幼稚園の夢を見てゐたのでした。枕許には、ゆうべ取つて来た螢が青い光をポツポツと出してゐました。

——終——



幼児にきかせるお話

お茶の水幼稚園

猫のお見舞

猫の玉子さんは可愛いらしいお嬢さんでございます。眼がくるくるとして、まつしろな毛で。お友だちが澤山に居ります。大きな犬さんも、小さな犬さんも、お庭の木にくさりでつないであるお猿さんも、みんな仲のいとお友だけでございます。

そのうちどうしたのか玉子さんは御病氣になつてしまひました。遊ぶのもいやだし、御馳走も食べられないし、小さな箱の中で赤いおふとんをし

いてねて居りました。そこで日頃の仲のいとお友だちが心配して、どんな様子だかお見舞に行きませう、私がかうしてくさりでつないで、あるから一寸行かれませんかあなた達で行つて見て下さいとお猿さんがいふものですから、大きな犬と、小さな犬とがいよくお見舞に行くことになりました。

「玉子さんが居ないで寂しいことね、何を持って行つて上げませうね」

「玉子さんは、かつをぶしが好きだったのね、時

々、あれを、おいしそうにかちつたり、しやぶつたりして居たぢやありませんか」

「でもね、今度の御病氣は、何でも、かつをぶしをかぢり過ぎたとかいふことですよ、それでお腹をこはしてしまつたのでせうよ」

「さうですか、それでは困りますね、大根も食べないし、きやべつも、きらひの様だし、あゝそれぢや、お魚がいでせう、柔かくおいしいものをさがして來ませう」

「それがいゝ、それがいゝ、どれ 買つて來ませうか」

そこで、大きい犬は大きい籠に大きなお魚を一尾買つて入れました。小さい犬は小さな籠に小さいお魚を一尾買つて來れました。

二人はそれをさげてお家を出ました。

道に水たまりがありました。

大きい犬は、大きな音で、ジャブくくくく

小さい犬は 小さな音で チャブくくくくとあるきました。

橋がありました。

大きい犬は 大きな音で ドンくくくく

小さい犬は 小さな音で トンくくくく

向ふから外の犬さんが來ました。

大きい犬は 大きな音で ワンくくくく

小さい犬は 小さな音で ワンくくくく

とおぢぎをしました。

玉子さんのお家につきました。

大きな犬は 大きく ガラくくくく

小さな犬は 小さく カラくくくく

と格子をあけました。

大きい犬は大きな聲で

「猫の玉子さん、御病氣はいかゞ、遊べないです

まりませぬね、これをお見舞に上げませう、召し

上つて下さいね、それではお大事に、早く癒つて

又御一緒にあそびせうね」

小さい犬は小さい聲でやつぱりさう云ひました。

玉子さんはほんとにうれしう御座いました。寂しかつたところでもの。それからすきなお魚もいたゞいたのですから。

「ありがたう〜早く癒つて又、遊んで下さいねお猿さんにも何卒よろしく。」

大きい犬は大きな聲で

「ではお大事に、さよなら、カラ〜〜〜〜」
小さい犬は小さな聲で

「ではお大事に、さよなら、ガラ〜〜〜〜」
又歸りには、トン〜〜〜、ジャブ〜〜〜
と橋を渡つたり水溜りを歩いたりしてお家に歸りました。

米 コ 米 コ

太郎さんのお母様はお買物があつてお出かけになるので太郎をおよびになつて。

「今日は少しお買物があるので出かけますからうちでよく遊んでいらつしやいそれからお座敷におまつりしてある金の黒様はさはると大變なことになるますから決していぢつてはいけませんよ。」

とよく云つてきかせてお出かけになりました太郎さんはお母様がお留守になつてからはお庭で土いぢりや三輪車をのりまはしたりして遊んでおりましたがもうあきてしまつてお家の中の遊びをはじめました。

ふとお母様が決していぢつていけないとおしやつた金の黒様のことを思ひ出しました。

お座敷へゆきますと金の黒様はにこ〜笑つ

ていらつしやいます太郎さんはお母様がいけないとおしやつた大黒様をいぢつてみたくなりました大丈夫だらうと太郎さんは手の上に金の太黒様のせました。

「別に何ともない大變なこともない。」

と太郎さんは安心してそのお大黒様をいぢつて遊んでおりました。

しばらくするとお母様は澤山お買物をさげてお歸りになりました、太郎さんは。

「お母様おかへりなさい」

と云ひましたがお母様にも外の人にも

「ポコポコ」

としかきこゑませんお母様は

「おや太郎さんどうしたの」

とききますとまた。

「ポコポコ ポコポコ ポコポコ」

と云ひます。

お母様は

「それではあのお座敷の大黒様をいぢつたのだらう。」

ときくますとやつぱり

「ポコポコ ポコポコ ポコポコ ポコポコ」

と云ひます。

そでれお母様はお座敷の大黒様のところへいつてみましたいつもおまつりしてあるところには大黒様はありません。

「太郎さん大黒様はどこへおいたの」

とお母様はきくますと太郎は。

「ポコポコ ポコポコ ポコポコ ポコポコ」

お母様は

「大黒様をもとのところへおまつりなさい」

とおつしやいますと太郎さんはお玩具の中から金の太黒様を出してお床の間におまつりしました。

お母様はこうしてもとのところへ大黒様をおま

つりすると御許し下さつて何でももとの様にあなたがお話が出来ますよ」とおしやいました。

太郎さんは

「お母様御めん下さい」

と云へました

「ほんとに私があるかつた御めん下さい」

ともとの様に云へました。

むぎ湯

よ し こ

六月十五日、今日からお辨當のお湯が麥湯になつた。皆よろこんだ。「あたし、こんなお湯いやなの」とも子さんは氣味がわるそうに湯のみを私の處に持つて來た。さう／＼とも子さんは體格檢

査もいやがつてさせなかつた子だつて。でも出来るだけのませて見ようと思つて、

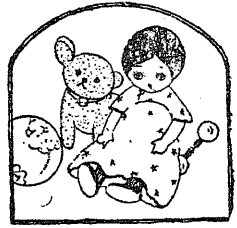
「おいしいのよ、飲んでごらんさいな」私は何度もさう云つた。小さいお友達も四五人お辨當をたべかけたまゝ、

「おいしいのよ、私ものんだわ」、「私も」「私も」とも子さんは當惑した顔をして、茶色の湯をながめて居た。この時くるりと、こつちを向とて、「ねえ」とひどく念を入れた上で。

「いやね、こんなお湯、私も大きらひよ」と何に對しても姉さんかぶの道子さんがとも子さんを救つた。

私はやかんを持つてさ湯をとりに行つた。

x x x



託兒所にありて感じた事ども

高 梨 花 子

五八

赤いおべべに眞白なエブロンバナマの帽子のリ
ボンもゆれて、バスケットの御辨當に可愛い、思
ひを描きながら楽しいお庭に朝を向へ夕を送つて
日毎に成長して行く美しい兒の、みのりを想はない
ではなれません。

眞黒な石ころも名工の磨きにかゝれば赤くも青
くも白くもなります。しかしどんな名高い磨き手
でもルビーをサファイアにダイヤモンドをエメラ
ルドにかへる事は不可能です。無瑕な玉はそれ
／＼廣い範圍に珍重され利用されてをります。

私共幼い人々の保育に微力をさゝぐる者は、い
づれも磨工でなければなりません。人間生活の

繁道へ門出を初めたばかりの人達は垢も塵も無い
美そのものです。想像の世界に生き、模倣と追及
の連鎖の主體です。

よく心ない棒切れと愉快そうに話しをしてをり
ます。對人無しに一人でいく二人分の言を弄して
現實の人との會話よりいとも流暢にやつてのけて
をる事も見ます。時には玩具の犬に追ひかけられ
て大聲を上げてビツツリさせられる事もございま
す。人形の命令によく服従して動作をすると云ふ
様な實に藝術そのものゝ表示であり詩の生活では
ありますまいか。

七歳の兒よく赤兒になり泣いたり、わめいたり

します。四つんばいになつてワン／＼となきながら室の四隅をはつてゐるきます。お積木をかついでならば、お口のラツバを吹いて教練をする、輪にした紐の中に五、六人は入つて「チン／＼うごきます。ガタ／＼」はする。お醫者様のまねは御上手、「お口あけでごらんさい、コト／＼／＼」小さな御父様御母様にはたくみになりすまし、はては幼稚園ごつこが小さい椅子のオルガンで初まります。いづれも無我の境には入つてをりますが、こうした生活を彼等から引き抜いてしまつたならば他に取上げる物がなくなつてしまひます。經驗のうすい兒童には模倣こそ自然の要求でございませう。

かつて私共の所の或子供の喧嘩をとめました時こう申しました「○○ちゃんのおなかの中に鬼がゐますねそれがあはれ出したもんだからお顔まで鬼の様にこわくなつてよ、豆まきの時すつかりお

ひ出せなかつたんだわ、さあ今すぐおひ出しておしまひなさい。」とするとその子は「あたいのところの父ちゃんと母ちゃん夕へ喧嘩したの父ちゃんお酒のんで母ちゃんとおぶつたの」とさも私の言に不満あるらしく何の臆面もなくうつたへるのでした。子供が一番崇拜し且つしたふてゐるものを批難された時のよるべない感情をあらはにして……しかし之位私を失望させ戦慄させた事があつたでせうか。純心な兒童の言語動作は凡てその母その家庭の反映です。之ではどんなに獻身しても水泡に歸する事はまぬかれませぬ。一時に光明をうばはれた感をもりました。

又或時の事です「先生！先生！」としきりによんでゐますが用事にまぎれて無言でをりました。「先生としちゃんブランコに板のせてうごかしてますよ」……………「先生ーッ先生ーッ」……………「先生としちゃんはね、としちゃんはねブーラン

コに板載せてしちやいけない事してゐるの「……
……」先生！先生！ツテバ「はいはい」と返事を
する迄いつまでもつゞけてゐます。この心こそ向

上して進歩して行くところの大なる要素でありま
せう。今自分にこうした半分の追及心も見へない
のは大方園藝家の技倆に因しはすまいかと思ひた
くなります。心ない自我から「うるさいね」とか
「よく人の真似をする兒だね」とか又はよいかげ
んな返事できりぬけ様とする様な、崩出づる若芽
を一々折たくないものです。

こうして教育に何の形式もなく遊戯の中にたゞ
人格のふれ合ふばかりを力にして社會生活の基調
を知らせ春をよろこび夏をしたひ秋を歌ひ冬を知
り神の御聲をきく得る詩的生活への門出をしつく
りとふみしめたいものです。きたない皮を幾枚も
幾枚も取のけば美しい眞白な味ふて美味な實のあ
らはれてくる筈の子の様な人が望ましうございま

す。上皮を去ればたゞけがれた、一塊の肉の残る
ばかりでは宇宙にいきづいてゐる事は物體ないこ
とです。

勿論園にありましてはその兒童の教育の權は私
共にあり、家にありましてはその父母にあります
前にも申しました様な極端な表はれは別としても
一言一句一舉一動よく母なり姉なりを真似るもの
でその兒の缺點は即ちに自分の缺點であると迄の
確心をもちたいものです。ですのに子供の前で酒
をのむだり喧嘩をするのは言にあまつてをります
いかに私共が逆ちになつてさわいだところで元通
りの事で、さわいたゞけが浪費です。こうなると
母さんの教養が先きか兒童の教育がさきかによま
ひます。常に動きつゝある社會に生きてゐるには
絶えず研究を要します。一週に一度二三時間をさ
いて愛兒のために教育の成功失敗、その他の經驗
なり、方針なり理想なりと闘論し、又今後教育を

する上に力になる様な高見をうかゞつたりするお母様の會をひらいて兒童の教育に心がけたいものです。

どこまでもゆるめばゆるまるし、引けば引きしまる純な子供の心をとらへて調子よくやつて行けるその調子こそ兒童教育の秘訣ではあるまいかと思はれます。

今更幼稚園の要不要をとやかくするのは時代錯誤の感があります。幼稚園をとかく贅澤としてあつかひ徒らに時代の風潮に押流され、虚飾の道具に愛兒を用ふるに至りましては大いに不満です。幼稚園をホントに研究していただきたいうございませぬ。

私共の託兒所にありましてはこゝは生存の必需品です。贅澤どころではありません。入所に際し母にその理由を聞きますに(一) 仕事に行くとき後にくす事が心もとないから、(二) 内職の邪魔

になるから、(三) 家にゐると小使をつかつてやり切れぬから、(悪習慣がついて性格の上に面白くない結果を産むからと云ふ考へでなくと經濟の事のみ考へて)と云ふ三種の理由にまとまる。生存のためには、他階級の親より一倍盲愛をさぐる兒を他人の手にすら放すのであります。こうして境遇の上に特種の色を帯びた子供のためには幼稚園の目的の外にまた重大な務めを、になつてゐる様に思はれます。狭い不潔な家に授拳教育をのみうけてゐる幼な兒をその親に代つて強くしかもやはらかな春陽の一ばいにめぐむオアシスに置きかへてやる事は、私共社會人の責任ではありませぬ。堀つてもさらつても泥水のさらひきれない感のするこゝした仕事をしてゐる者は強い信仰をもつて祈りの生活に精進して行きたいものです。

砂遊び自動車 (口繪寫眞参照)

富士見幼稚園

砂遊び自動車は、東京市富士見小學校附屬幼稚園の園児が、組立て、喜んで居る所であります。

此遊具は幼兒が砂場で砂遊びと、木片組立とを聯絡して、種々の遊びをなすに暗示を得て、考案したるものであります。

即ち砂遊と木片組立てとの聯絡作業であります。

此自動車は其の一例に過ぎませんが、大小長短の木片を幼兒に與ふれば、ボートや、馬車其の他種々の考案作業を、自由自在に發表して幼兒の天眞の興味大なることを實驗致しました。

一、二、三葉の寫眞は、木片のはこびから組立迄の實況であります、他の一枚は出來上て喜んで乘て居る所であります。

出來上りました自動車の頭部は砂で出來て居ります、頭部の所にある電氣は、砂遊びのお碗を使って居ります車には藤の輪を用ゐて居ります乘て居ります所は砂を掘て深くなつております。

抑も此自動車の成立は毎日砂遊びを觀察致して居りますと、幼兒の一部四五名が集て砂を掘り頭部を作り、腰かけを作り、ハンドルにおしやもじをさし、車には藤の輪をつけ、漸くにして出來上りよろこんで乗り込みますと、破損が出來き殆んど修繕に勞力を費して居ります、そこで何か都合よき板きれを與へたならば、其の目的を達せしむる事が出來るだろうと思ひまして、フレーザー館に言つて、右の板を與へ作らせたのであります。これは未だ至て不完全のもので御座いますから御覽になりました御方は、御批評と御感想とを御腹藏なく御仰て頂きましたなら、多大の幸福と存じます。

雜 錄

○表彰三女史祝賀會

今回幼稚園大會で表彰せられ、全會一致の決議を以て感謝狀と紀念品とを贈られた、膳、望月、田中三女史のために、それ／＼其の土地に於て知友諸君の間に盛なる祝賀會が行はれた。東京では、築地朝海幼稚園に、田中女史懇親の人々が相會して、祝賀會を行つた後女史を主賓として觀劇會が催された。神戸では望月女史のために、神戸の人々は勿論、大阪からも村田氏、三田谷氏、膳氏其他の人々が來り會して祝賀の宴を開き、趣向を凝らした假裝餘興等に、おばあさん方も若返つて腹をかゝへる盛會であつた。大阪では西區幼稚園首席保姆會の主催で、隨女史のために、極めて盛大な祝賀會が催され三百に近い參會者であつた。其

の狀況は左の報告の通りである。

大阪市立江戸堀幼稚園長膳眞規子女史

表彰祝賀會の記

大阪市西區幼稚園首席保姆會

幼稚園令發布記念全國幼稚園大會が、去る六月十九日から三日間東京女子高等師範學校で開かれました其第一日、議長柳澤政太郎氏は滿場六百有餘の出席者に、幼児教育界の功勞者表彰の件を諮られました。會員一同は此の意義ある勳議に双手を揚げて賛成いたしました。表彰者三名の内壁第一に此の榮譽を擔はれたが、我大阪市立江戸堀幼稚園長膳眞規子女史でありました。先生の名なきと一同は萬感胸に充ちて思はず悦びと満足と祝意の拍手を送りました。先生壇上の姿を見るや私共は臉の熱くなるのを何うする事も出来ませんでした。

先生が多年幼児教育界の爲めに貢獻せられた事は今更茲で駄筆を弄するまでもない事で、今日の榮えある表彰は、誰れの日にも均しくうなずかれる當然之事であります。先生の名譽は全く我大阪市の名譽であり、又誇であるのです。私共は即座に先生表彰の悦びを何うして現はしたら好いだらうかと思ひました。

同月二十八日西區の首席保母は本田の幼稚園に集まつて、その悦びを現はす方法を協議いたしました。此の悦びは私共十数名のみの専有物では無くて全市、殊に先生を知る程の者が等しく分つべき喜びである事を考へては姑息な方法よりも、寧ろ一般有志の方に諮つた方が好いといふ事に一致し、茲に全市幼稚園及び膳園長舊知の諸氏に祝賀會の通知をする事になりました。此の數約百三十五通、そして事務所を高塚幼稚園に置いて、七日締切十二日祝賀會といふ事に致しました。發送の翌日から申込が各方面から参り上々首席保母は會費の受理から、電話などで、忙殺されたのでした。

九日に今一度集まりまして萬事の打合せをいたしました時には實に二百三十五名の申込を受けて居たのであります。私共は豫想外の参加者を得て雀躍すると共に、今更なられど先生の徳を賞へないでは知られませんでした。會員は大多數大阪市の園長及保母諸姉でございますが、近郊岸和田、堺市岡町、池田、吹田邊からもわざわざに越し下さるとの事に一方ならぬ感激の念に打たれたので御座います。

十二日の當日は朝から妙な天候でしたが、午後になつて一層陰しくなり梅雨らしい雨が、驟雨をさへまじえていやな天氣になりました。

会場は何うしても膳先生の膝下の方が好いといふので、式場に江戸堀小學校の大講堂を拜借する事になり、茶話會場は雨天體操場と、いふ事になりました。これは全く同校長宮田氏の御厚意に外なりません、殊に同校職員方も全部に人會下さり、萬端お世話下さいました事を茲に厚く御禮申上げておきます。それに使丁諸氏も何に外の事じやありません、膳先生の御祝ひですもの、喜んで働かせて貰ひます」と言つて何から何までの準備を手傳られた事に深く感激しました。發起人一同は、子供を歸へすと直ぐに各園から花瓶と草花とを提げて保母諸姉と共に江戸堀へ参りました。廣い茶話會場は白いテーブル掛で彼ふた食卓で一パイです。五十幾つかの花瓶に夏草の色も濃艶に所せき迄に飾られました。宛然花の殿堂です。かうして會場の準備は全部調ひました。

午後一時前後には招待した來賓も大方御來會下さいまして式場の踐取も出來上りました。

二時を相圖に開會致しましたが、來賓としては府市の保育會を代表して市視學の村田次郎氏が來て下さり、西區長代理學務係長其他女子師範學校長代理として府屬小學校主事、三田谷學博士各新聞記者及び体育會功勞者等であります。なほ當日になつても引續き開き傳へて入會申込まれる方もあつて三百に近い會員がこの雨の日にもかかはらず式場に充ちました。新聞社の寫眞班は既

に來て陣取つて居ります。會員及來賓の着席があつて、今日の主賓膳園長は眞紅の薔薇を胸間に飾つて着席せられると、會員の眸に期せずして先生の顔にそゝがれ一種の感激に打たれるのでした。上々手高臺幼稚園保母司會の下に君か代の合唱から初まつて同姉の行届いた挨拶は、私共發起人の言はんとする處を残る處なく盡くして居りました。實に今度の表彰は膳先生の熱心と努力とそして圓満な人格と徳望が今日あらしめたので當然の事でありすがこの表彰は當に先生お一人の喜びではなくて、一般保育に従事して居る者の喜びであります。でこの喜びを眞心から祝福したいといふ私共の衷情が計らずも此の盛會を致したといふ事は是れ取りもなほさず膳先生の偉大なる所以であり、且つ來會者諸氏の斯道に盡くされるの心に厚い結果に外なりません。續いて會員一同よりの記念品を贈呈いたしました。來賓として府市の保育會代表村田市視學の祝辭があり、末常學務係長は西區長の祝辭を代讀せられました。其他三田谷博士・齋藤關西日報記者、加茂仁八氏會員代表として堀川幼稚園長和田孫三郎氏の祝辭が御座いました。最後に江戸堀校長宮田仲三郎氏の祝辭があつて、何れも膳先生の徳を稱へられたもので、聴くものは一様に涙ぐましく先生を仰ぎました。次に膳園長の答辭があつて式は恙なく終りました。

屋内運動場では既に茶菓が運ばれて居りました。一同先生を中心

に席につきますと、本田幼稚園保母八木カネ氏の挨拶の辭があつてから、會員諸氏のお話か御座いました。愛珠幼稚園長稻葉氏のお話に始まつて、先生舊知の方數名、續いて御津幼稚園長田村氏とかはろくに先生の逸話を稱へられました。其間幾度か無遠慮に寫眞斑はマゲネシウムに一同を驚かしました。

餘興は新進長唄界の革新家柁屋六輔氏の家庭長唄と稱する新らしい音楽、春の磯邊、兎と龜は、珍らしい彈方といふよりも教授法の新らしいので喜ばれました。

中でも上々手氏の諸曲鉢の木は堂に入つたものでうまいものでした。永い夏の日も早や五時になつて折からの霖雨は却つて落ついた氣分を與へてくれました。

何時迄話して居ても際限がありませんが、一先本會を閉する事にして上々手保母の發聲の下に一同膳先生の萬歳を三唱して閉會に致しました。

其間にも膳先生には始終來訪の人があつて、お忙がしく入らつしやいましたが、三百に近い來會者は最後まで祝意を共にして下さいました事を發起者一同深く感謝して居る次第で御座います。

美しく飾られた茶話會場も澤山な保母諸氏と同校使丁諸君のお蔭で見居る間に片附けられました。名残りのつきぬものは、再び幼稚園の應接室に先生を取まいて一時餘り話し合つてお暇を告

けたので御座います。

幾十になられても何時も御元氣で斯道研究の先驅であり又多くの人々に隔意なく一様に接せられる先生の人柄は私共の深く敬慕する處であります。わけて事進者、若い人々を懇切に指導せられる態度は、實に私共の龜鑑として。學ぶべきであります。一寸した私共の發意で、かく多くの方の御共鳴を得たといふ事は即ち先生の御徳望の隅々にまで及んで居る事を證明するものであつて、今回の表彰たる實に當然の中の當然であります。

拙い記事を擲筆するに當つて、先生の健康を祈ると同時に、益々斯道の燈明臺となつて普く世に輝きあらせられんことを。

(大正十五年七月二十一日記)

○第六回大分縣保育會總會狀況

東 本 正 水

一、大分縣保育會沿革

縣下幼稚園關係者の集會は大正十三年大典紀念

として故成蹊幼稚園長難波十列師の提唱にかゝる

大分縣下幼稚園關係者打合會に始まる一度此計畫の發表せらるゝや同業者の之れに對する共鳴や大二十餘里しかも十里餘は山路徒歩の外なき縣下竹田町より二兒を携行出席する保母さへ出すに至る以後此種の會合を必要とする聲強く。遂に毎年之が開催を繼續し新設幼稚園の増加と共に益々盛大となれり大正九年一月大分縣保育會と改稱し現今に至る會の内容左の如し。

加入園 公立十三 私立十二計二十五園

會員數 九十五名

總會 毎年一回各園順廻りに開催す

事業 保育に關する講習 遊戲研究巡回保

育思想宣傳講演 視察會こども養護

運動。

二、第六回總會狀況

本年は我國に於ける幼時教育開始滿五十年に相

當し、しかも幼稚園令の發布あり、去る五月二十六七日間高田町成蹊幼稚園に於て保育總會開催會員殆んど出席会場には 先帝並に昭憲皇太后兩陛下の御製（御題幼稚園）二首を掲げ金屏風其他幔幕にて裝飾せられ來賓として永井縣知事代松岡縣視學、宗郡長小原大分市視學齋藤別府市視學、伊藤町長、河村循誘學館長、麻與三等主計、正田島高女校長地方教育其他多數にして、參加園は大分幼稚園外二十三園、行事左の如し。

第一日

(二十六日
午前十時)

- 一、開會辭
- 二、國歌合唱
- 三、勅語奉讀
- 四、會務會計報告
- 五、開催園長挨拶
- 六、幼稚園開設滿五十年記念式

1. 開會の辭

2. 會長式辭 鹿野視學官
3. 來賓祝辭 永井縣知事

宗 郡長

伊藤 町長

倉橋先生外數通

4. 祝 電
5. 閉會辭

第二日

(二十七日
午前八時)

一、保育關係者追吊會

1. 喚鐘着席
2. 會長弔辭
3. 讀 經
4. 燒 香

二、成蹊幼稚園視察

三、遊戲研究（保姆のみ）

四、園長打合（園長のみ）

午 憩

五、閉會式

終

三、夜 會

會員一同成蹊園内に宿泊、幼児同伴の保姆數組あり、午後七時より四時間遊戯の研究、終りて懇談會に移り真に家族的にして楽しく打解けたる會合とて時の過るを知らず、松岡臨視官も其熱心に驚き謝辭を述べ一同就寢せしは午前一時なりき。

四、保育關係者追吊會

光月寺本堂に逝きし難波園長外十三名の靈位を安置し、其他莊嚴懇懃にして鹿野會長は悲痛なる弔辭を朗讀す。續經中會長遺族已下順次焼香をなし故人を追慕して感涙に咽び嚴肅なる法要を營めり。

五、成蹊幼稚園視察

左記のプログラムにて運動會行はれ園兒の活氣ある運動、愛らしき遊戯は尤も快味ありて最後に批評會開催す。

1. 入場式(運動會歌) 2. カチ／＼山浦島太郎 3. 戦

あそび 4. 二河白道ひらく 5. 玉引 6. 綱引 7. お節

句犬 8. リレー 9. 雀踊笹の舟 10. ユヅラトビ 11. バ

スケツトボール終り

六、問 題

1. 協 議 題

A 幼稚園に於て施すべき團體訓練の程度如何

(日出)

B 保育要目の編纂を望む(中津南部)

C 觀察科の取扱ひ及び設備を如何にするや(大分)

D 幼稚園令改正に供ふ内容充實の要點如何(成蹊)

2. 談 話 題

A 幼稚園に於ける衛生施設の狀況承りたし(日出)

B 幼稚園と小學校との連絡狀況承りたし(日出)

C 幼兒の身體検査及其後の取扱ひ方承りたし

(中津北部)

D 自由遊びに使用せる玩具の種類承りたし(日出)

E 保育上陥り易しと認むる缺點承りたし(成蹊)

其他省略

七、園長會

左記の件可決す。

1. 縣當局に女子師範學校附屬幼稚園の設立を建議すること

2. 幼稚園發布記念全國幼稚園大會に出席の件

3. 本年度講習會開催の件

4. 大分縣教員互助會入會の件

5. 來年度總會開催地の件(中津)

6. 來年度豫算編製の件

八、閉會式

成蹊園主催の午餐會ありて、天門園長の挨拶、來賓代表松岡縣視學の謝辭、伊藤町長は落花生いさご並に名所繪葉書を贈つて連日の勞を慰め、立花副會長閉會の辭を述べ、最後に會員一同の遊戯及萬歳を三唱して散會。

○本會の遊戯講習會

今年は幼稚園令が制定せられ、つゞいて全國幼稚園大會が催され、又七月二十六日から文部省主催の幼稚園講習が開かれました。その午後には『土川五郎先生の律動遊戯と表情遊戯』戸倉ハル先生の『表情遊戯』の講習を幼稚園協會でいたしました。

この様に意味深い年故、今年是人々の心には、特につね々々幼児と共に暮して居る人々の間には、黙々の中にこの度の講習にはよほど大きな期待をもたれた様でございました。が果して、三百人近くの人々が折柄の暑さをも忘れる程の強い力と豊かな聲とが大きな講堂にあふれるばかりの盛會で二十九日に終りました。

幼稚園雜草の後に

倉橋惣三

幼稚園雜草を手にして、私はいろ／＼の追憶にふける。お茶の水幼稚園に於ける古い思ひ出が、湧くやうに胸にせまる。その永い間、親しい交誼を受けた先輩、同僚の諸君が、なつかしい記憶に浮ぶ。なかにも、共に遊んで呉れた多くの子ども達の顔が、にこやかな笑顔の波の中に浮びあがつて来る。——私にとつて、幼児教育の師は澤山ある。しかし、最も大切な、最も眞實なことを教へて呉れたのは、此の多くの幼児達であつた。私は幼稚園雜草の巻頭に「此の書を、私といつしよに遊んで呉れた幼児達に献ぐ」と前書きし度いと思つた位である。

此の書の中に収めた各篇は、やゝ長いものから

七〇

極く短い感想に至るまで、その時／＼の濃い心持ちを伴はぬものはない。人に結びつき、場所に結びつき、時に結びつき、何故斯ういふものを書いたかといふ、其の時々の感じの伴はぬものはない。嬉しくて書いたものもある。憂へて書いたものもある。悲んで書いたものもある。空想の夢に浮かれて書いたものもある。——私には感情なしには何も書けない。殊に、此の書の中のもの、皆感情の文字である。

幼児教育の理論的著述や、實際的著述も、いつかは書かなければならぬ義務があるとも思つてゐる。しかし、此の書ほど、幼児教育に關する私の心持ちのあらはれたものは、更めて筆を執つても、恐らく書けまい。——私は、此の書を世に問ふ程の自信もなく、又そんな氣もしないが、私の友人には皆に皆讀んで貰ひたい氣がして居る。

告 稟

一、幼稚園及び小學校、家庭、育兒、看護等に關する論說
 調査研究等の寄稿を歓迎いたします。
 一、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字
 下げること。また句讀點は一字あけること。
 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新
 刊書、交換雜誌、入會手續、更に
 本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切
 左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
 日本幼稚園協會

定 規 文 注

一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい
 居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校
 附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申込下さい。
 一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は凡て前金
 (郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)
 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七
 二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特
 に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封
 に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御
 送金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひ
 ます。

定 價

一ヶ月分一册	金參拾五錢	送料貳錢
半ヶ年分六册	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年分貳册	金四圓貳拾錢	送料共

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

大正十五年九月十日 印刷
 大正十五年九月十五日發行

幼兒の教育 第二十六卷 第九號

不 許 複 製
 禁 轉 載

編輯兼 堀 七 藏
 發行者 堀 七 藏
 東京府豊多摩郡戸塚町大字戸塚五七五
 東京市牛込區山吹町一九八

印刷者 大杉直次郎
 東京市牛込區山吹町一九八
 印刷所 大杉印刷所

發行所 日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

告 廣

特等面一頁 金參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓
 一等面一頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷
 神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい

少年少女常識叢書



東京高等師範學校 府立師範學校 學習院 女學校 東京女子高等師範學校 各中學校 教官分擔責任執筆

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
東京小松崎三校著	東京小松崎中學著	東京小松崎中學著	元早大助教著	東京佐藤保太郎著	東京岡崎常太郎著	東京學正院著	東京大瀨井真著	東京中澤伊興吉著	東京古川龍城著	東京元白勝一著	東京川崎喜三著	東京元早大助教著	東京小松崎中學著	東京元早大助教著
海	空	無線電	南	昆	人	瓦	發	興	星	動	火	蒸	植	地
中	中	線電	半	虫	の	斯	明	味	の	物	と	汽	物	震
旅	動	信	球	の	行	の	家	の	世	の	空	の	の	の
行	物	、	巡	世	く	魔	と	算	界	生	偉	世	知	識
園	園	無線電話	り	界	道	力	見	術	活	氣	力	界	識	識

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	
東京田邊八著	東京坂本五著	東京關口長著	東京岡崎常太郎著	東京金子彦二著	東京白非勝一著	東京京府田一著	東京中田俊造著	東京城女高師著	東京橋本高師著	東京山本幸雄著	東京水谷高師著	東京齊藤英夫著	東京川崎喜三著	東京鈴木木鶴吉著	東京金子彦二著
心	鎌	我	現	地	寫	理	飛	北	偉	世	鐵	國	格	算	
の	倉	等	代	下	生	化	行	半	人	界	と	語	言	術	
算	物	身	常	さ	の	學	機	球	の	の	石	の	の	の	
術	語	體	識	く	樂	實	の	巡	生	氣	油	知	知	知	
術	語	體	典	り	み	驗	話	涯	候	油	識	識	識	識	

後前頁十八百十數畫插裝美判六四

錢六料送 圓壹金各價定

◆呈進本見容内◆

卷十三全

認 定 文 部 省

東京高師茗溪會推獎
各都市教育會賞讚

東京市牛込區西五軒町四十一番地
發行所 文 洋 社

電話牛込九一六番
振替東京一五〇九四番

草川信先生 編作 纂曲

五版出來

歌ひ方の
ついた小學二年の唱歌

新刊

斯道の各大家の創作になる無数の童謡の中から、一二年、三四年の二つの分類に當てはまる、珠の如き名篇各七篇を選び、草川先生の全心を打ち込んで作曲されたもの、各編の終りには歌詞や曲の解説を附して歌ひ方の純真な魂の中を、しつくり出す様に、是非行つて異常な藝術的効果の純真な魂の中を、しつくり出す様に、是非行つた。

歌ひ方の
ついた小學三四年の唱歌

動Fの
ついた やさしい 唱歌

續動Fの
ついた やさしい 唱歌

定 各 價 各
送 料 各 拾 八 錢

歌 詞
作 曲
振 付

野口雨情・北原白秋・加藤まささを・中村雨紅・千葉春雄
傳田治助・工藤みさを・清水かつら・黒田みのる・中西芳朗
草川信・本居長世・中山晋平・弘田龍太郎・梁田貞・福
井直秋・佐々木すぐる・林松木・池尻景順・杉山はせを
つを・志藤優芝・平岡やちよ・印牧守五を・森田四太郎

次 目

夕焼小焼 牛の畫像
風 鈴 ビカビカ星
山の子麩
お池の土橋 木の實

送 料 各 拾 六 錢

加藤まささを先生装幀
定 價 各 八 拾 錢

次 目

赤い木の實 蝶々のつかひ
青い朝
山の馬車 どんく橋
おこめ お風呂たき

厚生閣書店 發 兌 振替東京 東 替 振 京 五 九 六 番 町 區 下 六 番 四 八

(幼稚園に恵まれた童謡)

久門嘉祐作歌並戯曲

堀田 義正作曲

堀田 影子琴曲

新童謡

第一集

(附、童謡遊戯)

著者は久門先生であります。多年

東洋幼稚園牛込分園長として又童謡研究會主幹として同時に男の保姆として親しく幼児の實生活に浸つても來た賜物として茲に此の新童謡が生れ出たのであります。

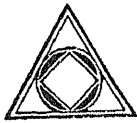
先生曰く子供が生れて其第一撃「オンギャアン」は謠である、それから謠に寢謠に機嫌を直し謠に遊ぶ童謡は所詮幼児の生活であると、

眞に是れ幼稚園の眞の童謡!!

定價は僅に七十錢にて販賣致します。(第二集續いて出版す)



發行所



東京小石川區指ヶ谷町

株式會社

ベール

電話 〇三六川石小
四六九一京東 替振

